

LE COEUR

MATSUBARA

1979

27

LE

総務報告

2

おりおりのことば

4

特集

5

学校生活がつまらない方へ

6

学校生活のこと、生徒会のこと、みんなで一度考えてみませんか？ 大切なことですね。

イラストページ

12

座談会 熱中時代！

君は今フィバしているか？！

13

この座談会には私も参加しましたが、みんな同じようなことを考えているものですね。楽しい時間でした。

寄稿

19

Music Cosmos

20

あなたにとって音楽とは何？……私には音楽のない日々なんて考えられません……

イラストページ

23

「アンネの日記展」を見て

24

世界史レポートの一部をお借りしました。じっくりと読んでください。

プロローグ

ル・クールは、松原高校のこの一年の記録となるものです。内容は過去のものであってわかりきっているものがほとんどです。おもしろくない、と思うかもしれません。否定的な御意見もいくつか耳にしました。けれども私たちはこの本をよりおもしろく読んでもらえるように、いろいろな人の意見を聞き、取り入れ、委員それぞれが精一杯がんばりました。たった一冊の本を作るために百人近い人たちの手がかかっています。

この本を読んで下さる皆さんと同様、私たち編集者も松高生です。「あの時、こんなことがあったんだ」と楽しんでもらえればと思います。尚、製作にあたり、御意見、イラスト、原稿等を下さった方々、御協力ありがとうございました。ここに御礼申し上げます。

二年D組 小山 洋子

行事報告

29

松高365日

30

今年度もいろいろありました。四月からはまた新しい「松高365日」が始まります。

恐怖の指紋あてクイズ

42

生徒会報告

43

委員会紹介

44

いやいや、いた委員会でも、けっころ楽しくなるものではないですか？ これも松高のひとりの思い出となるんですよ。

クラブ紹介

48

みんな、がんばっていますか？……各クラブの楽しい自己紹介です。

編集後記

58

24号を作るにあたり、やはりいろいろなお知らせがありました。編集委員の最後のことばを聞いてください。

※表紙：仙田山聡子

※カット：勝呂國弘・大久保英昭

……セセ

Chiaki

53年度総務報告

今年の総務は、松高以外の高校のよい点をできるだけ導入しようと、主に、学校外の活動に力を注いでやってきた。みなさんも知っていると思いますが、二学区の高校の生徒会役員が集まり、お互いに問題を提議し話し合う場…二高懇（東京都立第二学区高等学校生徒会懇談会）の当番校（司会その他）を引き受け、他校との交流を深め、同時に松高をよりよい方向に進めて行こうとしました。文化祭の時なども各学校の文化祭進行状況をはったり、学校の地図などもけいさいしました。今まで同じ第二学区でも、「松高って何群？——そんな学校あるの？」等いわれてきました。

もう一つの大きな行事…文化祭については案外うまくいったと総務役員が全員思っている。ただ、できれば各クラス・クラブにももう少し多くの予算を出すべきであったと思う。もし、今まで各クラス一万二千円の援助費をランクをつけ、映画をつくるクラスは三万円で二クラスとか、展示のクラス一万円で三クラス、芸能をするクラス四万円で四クラスなどの制限をしたかった。なぜなら最近の文化祭は小規模なものになりつつあるからである。このように援助金をランキング別に分け、それに応じて予算をくめばよかったと思う。

今まで『生徒会』という言葉を数多く使ったが、生徒会というのば、生徒会員の手作るものである。よく言われることに『春、野原に行こう。一本一本の花は花屋にあるような立派な花はなく、貧弱ではあるが、きれいな空気と青い空のもとで、これらは大きな花

たが今年やっと花を咲かせ、松高のアピールも同時にしてきました。

また、松高内では、まず『予算・決算を今まで以上に徹底化する』をモットーに予算を立て、決算もモットーどおりに終わると思います。今まで中途半端であった生徒会費の支出もガッチリと総務でにぎり、管理も十分にやってきました。

校内行事に於いては『体育祭のほんとうのあり方』という原点に中心を置き、援団の増大化に拍車をかけ、体育中心の体育祭に少しでも近づけようとした。しかし、今年できた事は、援団の位置・人数の制限ぐらいしかできなく、結局はいままでとあまりかわりのない援団祭になってしまった。このことは今年度の総務の反省でもあり、これからの生徒会活動の重要な点になると思うが、もっと生徒全員が楽しめる体育祭にしてほしい。

園となる。生徒会も一人一人が参加する（単に生徒会費を払うだけでなく）ことにより、立派な生徒会が作り上げられるのだと思う。全員が協力すれば、不可能なものだって可能になり得ることができる。そうすれば結局、得をするのは、自分自身であり、松高の為でもある。例えば、よい例かわるい例かわからないけれど、去年やっと自動販売機が入った。これは、大部分の会員の賛成により、五年か六年の年月をかけ、やっとの思いで入れたものである。やはり生徒会だけが動いても、職員側でけられたり、なんの役にも立たずに消費して行く。結局は、自分たちの為にはなんにもならない。

もし、希望があればドンドン評議会を通すなり、直接、総務役員に話しかけ自分たちの意見を言ってほしい。われわれ、総務役員はいつでもこの意見を期待し、待っている。

おりおりのことば

校長 道広史行先生

白髪・細身の校長道広先生。始業式などでの短かく明快な語りかけは、生徒にも好評のようだ。四季おりおりのそのお話を誌上に再録してみよう。

感動を (昭和53・4・9)

一学期始業式は、全校生徒とはじめての出会いの日。この日校長先生は「感動を大切に」と述べられた。その簡潔なお話がさわやかな第一印象となった。

切りかえる (9・1)

今日は秋の気配が感じられる。暦の上でも秋は「文化の日」があり、「芸術の秋」「文化の秋」「スポーツの秋」と称されるように、多くの実りの期待される時期である。学校行事にも文化祭があり修学旅行がある。しかしそれらの中でもっとも大切なのは「読書の秋」

であろう。これが決まった祭日になっていないのは、逆にそれがもっとも大切な、また日常的なものであるからだ。

ところで、そうした色々な方面に成果をあげてゆくためのキー・ポイントはなにか。それは切りかえるということであろう。三年生にとっては、進路を具体的に決定する時、否、既に決定した進路を自己の力で達成してゆく時期である。そのことを離れては自分の生活を見失うことになるだろう。

すべてのことに意欲的に取り組むことが大切なのは言うまでもないが、心の切りかえを巧みに、自己に即してやっていくことがその中心になると思う。

個性を知ろう (12・25)

諸君の前に立つと杉か檜かの林の前に、ちょうど植林地に立っているかのような気がする。天にむかってすくすくと伸びてゆく姿を思う。しかし、学習の評価や成績会議における先生方の評定をみると、必ずしもそうすくすくとはかりはいえないようだ。努力の差があるというようなことではない。人によっては節をつくる竹のように、また人によっては

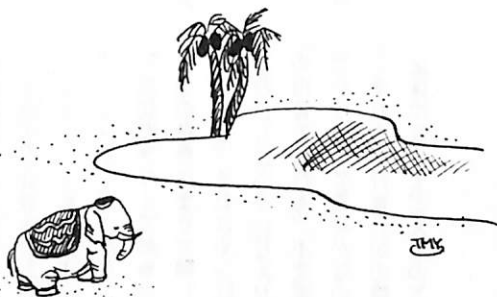
まっすぐ上に伸びるのではなくて高山の這松のように横へ伸びて曲がりくねり、風雪に耐えてゆくものもあるだろう。努力の量もそうだが努力のしかたが違うのではないか。自分の努力のしかたが自分の個性、特性、特質をいかすようになされたかどうか。また、努力の質を通して逆に自分の個性がわかるということもあるだろう。自分はどうな努力をしたか。個性にあったか。竹と思う人は節々をしっかりと太くして、また檜のような人は毎日毎日均等に努力を重ねて美しい年輪をつくっていったほしい。

絶対者に対する畏れ (第一回昼の会)

「今日は形而上的な話をしよう」と前置きされて、絶対者を知り、畏れをもつことの大切さを説かれた。マイクの調子が悪くて、よく聞きとれなかった人が多かったのは残念！

お酒にめっぽう強く、大変モダンな方だといううわさの校長先生。これからもそのお話を私たちの心の糧としていきたいものだ。

TOKUSHU
特集



学校生活が 必読 つまらない方へ

つまらない方も、読むべきです!!!

みんなは今、自分の高校生活をどう感じているのかな。全然つまらない人もいるかもしれないし、友達とヤンヤンヤで案外楽しんでいる人もたくさんいるだろうし、それは人それぞれだろうけど、それじゃ、松高全体をパット見回してみると、松高生って学校生活を適当にENJOYしているって感じじゃない。確かにさ、楽しけりゃそれでいいよね。でも、それだけでいいのっていうと、いいのかなあ……。松高全体のふんい気として、何かに燃えているノって感じがしないでしょ？これはみんなも感じていることじゃないかな。個人個人は適当に楽しんでやっけていても、みんながひとつになって何かに、って感じじゃないよね。どうしてだろうって考えるとき、……生徒会の今の状態が大きな原因なんじゃないかなって思わない？

これでいいのか、生徒会総務ノ

なんて、こんな題書きちゃうとかしこまっちゃうけど、みんなだって今の生徒会が決していいとは思わないでしょ。まずはっきり言っただけじゃいいし、だらしないよね。どうしてだろう？



だいたい僕らはさ、自分が松高生徒会の一員である、という自覚がないんだね。自分も生徒会の一員だっことを忘れちゃっているんだよ。生徒会というものに不満があるなら、僕らひとりひとりにも責任があるんだよね。僕らも生徒会員なんだから。なのに僕らは自分の悪いところも忘れて、みーんな総務のせいにして、傾向があるでしょ。

確かに総務っていうのは僕らの代表でさ、生徒会運営を行う一番のいない手だよ。だから良い生徒会を作る上で最もがんばらなくちゃいけないのは総務だと思ってるよ。でもさ、かといってね、彼らに「生徒会が良くないのは全て総務が悪い！」なんて言えないよ。だって僕らも生徒会員としてやるべきことをやっていないのに……。そうでしょ？それをさ、みんな総務のせいにしてちゃうなんて良くないよ、虫がよすぎるよ。自分勝手な責任転嫁だよ、ね、言っしまえばさ。

これでいいのか、生徒会総務ノなんて書いたけど、やっぱり、生徒会運営を行っていく上で最も重要である総務に、まず一番の問題があるんじゃないかな。生徒会の中心である総務がしっかりしなくては、生徒会全体が良くなっていく訳がないと思わない？そんなじやどこが悪いのかっていうと、まずさ、

総務は自主的に何でもやっけようとする意欲にとほしいノ
ってことが言えると思う。例えば生徒総会とかを思い出してみてよ。はっきり言って、総務の状態なんて見ていられないでしょ。僕らへの指示、会の進行とか、先生に頼りっぱなしじゃない。あの生徒総会は生徒会主催のはずでしょ？ だったら、みんなをまとめる役は先生じゃなくて総務のはずだよ。なのにうちの総務はまるで頼りなくて、権限がないんだよね。それはやっぱり総務に、意欲と努力が足りないせいなんだよ、うん。生徒総会の内容と進行も、不安定でまとまりがなくて、だらけていて意味がないじゃない。

それに、行事とかの時にも、なんか生徒会全体でなくて、先生の方でいろいろと決めら

僕らは今、生徒会イコール総務、っていう考え方をしているって感じじゃない？ 生徒会のことを総務に任せすぎなんだよ。自分達のことながら、甘たれてんなー、って思えるよ。その結果、僕らは生徒会員でありながら、生徒会にますます無関心になってさ、どんどん不満も大きくなってさ、まあ、そういう悪循環ってわけ。これじゃあ、生徒会はだめになっていくばかりでしょうが。僕らにもより良い生徒会を作っていく義務があるんだよ。総務に対して不満を持つ前に、僕らも自覚を持って、自主的に生徒会に参加していかなくっちゃいけないんだよね。なのに、僕らの態度もなっていないよ。

そうだね、例えば生徒総会とかでさ、自分から静かにちゃんと整列できたことってあったかな。なんか知らないけど、いつまでも騒いで、先生や総務役員の注意も耳に入らず、おとなしくなるまでがひと苦勞でしょ？さ、て、やっと会が始まったと思ったら、それでもしつこく前後左右としゃべってさ、うるさいもんだよね、りっぱに。もっとやるべき時にちゃんとやれないのかな……。なーんて僕も決まてまじめに聞いちゃいけないけどさ。

れちゃうことが少なくないと思うでしょ。そんなんじゃないんだよ！ 総務がもっとしっかりした意志と態度で、自主的にやらなくちゃあ。そしたら先生も総務を信頼して任せてくれるよ、きっと。なのに、今はみんな「どーせ……」って感じの完全なあきらめムードじゃない。総務に限らず、生徒会全体が何かこう、新しいものを作ろう、始めよう、っていう感じがなんだよね。でも、そんな状態に流されていちゃだめなんだよ。何か革新的なことをやってみなくちゃノ すなわち、

チャレンジ精神がないんだよ！ チャレンジ精神がノ

悪いところがあるなら直そうよ。何でもやってやろうよ。やってみようよ。そういった意欲ってすごく大切だと思うよ。

自主性がない。チャレンジ精神がない
これでいいのか、生徒会総務ノ (いいわけないな、うん、ないよ。)

……でもさ、僕らはどうなんだろ。僕らにも悪いところってあるよ。やっぱり、僕らからもそれを直していかなきゃあ。ね?!

でもさ、僕らが騒ぐ、すると会が長びく、そして僕はまた騒ぐってわけね……。そりゃまあ、総務側の進行の悪さもあるけど、僕らももっと、はじめと、真剣に生徒会にのぞむ姿勢を持たなきゃね。暇だったらちよっと生徒会機構図を見てみてよ。(見た?)それを見ると、生徒総会が一番上にデンと構えているよね。つまり生徒総会っていうのは生徒会内のコミュニケーションの場というわけで、すごく大切だってこと、いい?でも、その生徒総会があんなにだらけていちゃあ、もう終わりだよ。生徒会が良くなっていくわけないじゃない。でしょ?僕らもううちったあ、まじめにならなきゃなあ……。



それとか、ひとりひとりが生徒会に活発に参加していこうとしないしき。例えばホームルームの時に活発に意見を言わないで

しょ。誰かが何か言うだろう、とか、決まったことに従うよ、とかさ、そんな感じでしょ。確かに自分の意見を活発に述べる、なーんてこっぴどかしいし勇気がいるんだよね。適当に妥協して調子合わせていくんならそりゃ楽だよ。でもみんながみんなそんなだったら、生徒会に明日はない、のだ。考えてもみなよ、自分から意見は出さないでさ、さて決まったことが都合悪いとブーブー言うなんてさ、そんなの自分勝手じゃない?総務や先生に不満を持ったり、希望したりするだけじゃなくさ、自分から少しでも変えていこうとしなくちゃ。もっと真剣になって活発にぶつかっていいこうよ。どうせムダさ、なんていじけないでさ、僕らの生徒会なんだから、僕らの力で少しでも直していこう、良くしていこうと思うこと、そしてそれを表していくことが大切なんだよ。

総務役員選挙の時、いいかげんに票をいれている人も中にはいそうなんじゃないか。でも総務は僕らの代表なんだから、そんなことじゃいけないよ。それに選んだら最後、総務に全く協力しようとしなくて。とにかく無関心で、関係ない、勝手にやってくれよ、って具合でしょ。これじゃあね……。

僕らの方からも、総務を中心にひとつにまとまっていこう、としなきゃだめだよ。ちょっと考えただけでも僕らの反省すべき点ってこんなにあるんだよね。

僕らはもっと生徒会員としての自覚を持って、真剣に活発に生徒会に参加していかなくちゃ!

ね?そうでしょ?だって生徒会っていうのはいわば「俺たちの世界」なんだよね。(何かみただけ)全てはその俺たちにかかっているわけ。

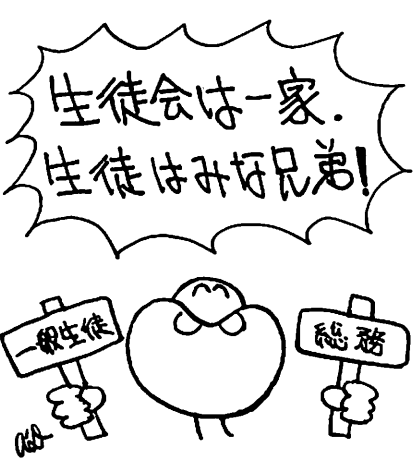
どうする!! 松高生諸君!! ??

さて、もうひとつ大きな問題が残っているんだなあ。そ、機構のこと。いや、機構図そのものが悪いんじゃないかって、

総務・評議会・議長会・ホームルーム等のつながりが薄い!

ってことなんだよね。

意見を出さないっていうのは確かに問題だ



いよ。ひとりひとりがどんなに心を入れ替えても、それだけじゃだめなんだよ。僕らにとって総務が全く別格じゃあ、ホントにどうにもならないもんね。もっと密接して、いるべきだよ。

なーんてえらそうにいろいろ書いてみたけど、問題点をあげるの簡単なんだよね。大切なのはこれから先、どうしていけばいいかってことでしょ?

Lets begin!
とにかく何かを始めよう!

うーん、例えば他校の例をとってみると、ある都立高校では、総務と一般生徒とのつな

がりを深めていく方法として、とにかくプリントをたくさん配るんだよね。生徒会のことなら何でもプリントという形で一般生徒に連絡するわけ。これを詳しく書いてわかったんだけど、第二学区の都立高校で、松高ほどプリントを利用してない高校ってほんと、ないんだよね。生徒会に関するプリントに使う紙の量を比べると、他校では松高の何十倍と使う所もあるそう。同じ第二学区の都立高校でだよ、こんな違いが出るのは、やっぱりこちらの努力不足なんじゃない?松高だって印刷機は生徒会室にあるんだからさ、やろうと思えば、もっとやれるはずなんだよ。別にプリントが全てもってわけじゃないけどさ、これも一つの方法でしょ?

それと、まず生徒総会だよー。考えてみりゃさ、生徒会員としての全員が顔をあわせる機会って言えば、生徒総会ぐらいなんだよね。(選挙の時もだけど)その生徒総会がある状態じゃあね……。もっと充実した内容作りが必要だね。総務や各委員会がもっといろいろなことを話して、そして僕らも質問や意見を出す。そんな生徒総会ができないかな。今はさ、総務や委員会側のみからの一方通行

けど、実際、そんな機会がないじゃない。まあ、作ろうともしないけど。もっとホームルームで話し合うことがあってもいいんじゃないかな。ホームルームで生徒会員としての話し合いの時間を持つことが少なすぎやしないかな。ホームルームで話し合ったことを議長会へ、または評議会へ、そして総務に提出。それとかその逆の、総務からの問題提議を、議長会等を通じてホームルームへ。といったシステムのはずが、ところがどっこい、ほとんどといていはいど行われていないよね。だから、ひとりひとりの意見が総務まで全く伝わらない——すなわち反映されないわけ。言ってみれば、総務と僕ら一般生徒の関連性がなくなっちゃっているんだよね。だから僕らも生徒会にでんで無関心になっちゃう。

これはたいへん問題ですよー!!

生徒会?総務って今何やってんの?っと思うでしょ?総務や評議会の中でどんな動きがおこっているのか、全くわかっていないんじゃない?こんな状態、いいわけないでしょうが。総務と僕らがひとつにまとまってこそ良い生徒会ができるんだよ。そうでしょう?!

でも今の状態のままじゃ、どうしようもな

でしかないでしょ？ もっと相互関係を大切に
にした生徒総会、そんなのっていいな！と思
うよ。事実、そういった生徒総会が行なわれ
ているところだってあるんだもんね、できな
いことないはずだよ。

それと、松高って生徒会主催の催し物とか
が少いと思う。あの生徒総会がやっとこさそ
れに入るって程度だもんね。もっともとい
ろいろな催し物なんかを積極的にやって、生
徒会内のコミュニケーションの場を広げてい
くのもいいんじゃないかな。そのほかにも、
定期的とかにでも総務からの放送をしたり、
またそのあとにクラスでの話し合いの時間を
作ったりするとか、（これはホームルームの
時間を、一月に一回とかいうように決めてや
ってもいいし）あとは、掲示板を作るのもい
いと思うよ。みんなの目につくところにデー
ンとたてたり、学校内のあちこちに立てたり
それから、投書箱ならぬ目安箱を作るわけ。
専用の黒板を置くのもいいし、とにかく一般
生徒からの不満や提案を出させることも必要
だもんね。それが出なければ、アンケートな
んか作って、意見を出させればいいし、まず
総務からの働きかけが大切だと思うよ。

よう、たゆまぬ努力をお願いします！
ねえ、みんな、僕らも気持ちをもっとにし
てがんばっていきましょうよ！

—今、学校生活を

どう過すか!!—



なーんて今までいろいろ書いてきたけどさ、
こんなこと書いて、どれだけの人がどれだけ
のこを感じてくれるのかなあって、かなり
不安なんだなあ……。言ってみれば、僕が言
っていることなんてさ、たぶんみんなもわか
っているんだよね。それでも……できないん
だよ……。こんなこと書いてみてもどうせ
ムダなのかなあって何度も思ったんだ。でも
そんなことじゃいけないんだよ。

そうだよ、やっぱり誰かがやり始めなくっ
ちゃあ！そして、僕らひとりひとりがそう
思わなくっちゃあ！そうでしょ？！

活発な生徒会って、やっぱりいいもんだよ。
学校全体が活気づいていてさ、何かこう……
充実していてさ、そんな感じってホントにい
いな！って思わない？ 適当に楽しむって

今のこのだらけた状態を変えていこう！
というんなら、何でもいからやってみなく
ちゃあ。そりゃ簡単には良くはならないだろ
うけど、それでもまずやってみなくちゃお話
しにならないよね。はっきり言ってここまで
墮落している生徒会を立て直すにはさ、ちょ
っとやそつとのことじゃだめだよ。ムチ
ャクチャなほどのチャレンジが必要なんだよ。
Let's begin! とにかく何かを
始めよう！

……てなわけで、僕らひとりひとりが反省
しなけりゃならないのはもちろんだけど、で
もやっぱり、まず総務にしっかりしてほしい
な！って思うんだ。総務も実際はかなりの仕
事をやっているのはわかるんだけど、それが
僕らに伝わってこないんじゃないでしょ。
そりゃたくさん仕事があつてさ、その上、他
のことにまで手がまわらないっていうんじ
ゃどうしようもないのかもしれないけど、でも
このままズルズルっていうんじゃあ、何も
変っていきたくないよね。たいへんだらうけ
ど必要以上の努力が、今はそれこそ必要な
だと思ふ。

でもさ、特にやるべき仕事がない時の生徒

うだけじゃ、やっぱりちょっと寂しいよ。た
だただ朝おきて電車にゆられて（そうじやな
い人もいるか）つまらない授業（なーんて）
うけてクラブとかやって疲れて帰って……そ
んな生活を三年間も続けるなんてさ。もっと
みんなが一体となって何か燃えているな！っ
て、そんな価値ある素晴らしい生活したいっ
てみんなだって本当はそう思っているでしょ？

生徒会が活発になると、そういうたふんい
気が学校全体に感じられてさ、すごく生き生
きた学校生活が送れると思うんだ。そうい
う時って何をやって、自分の全てをかけて
熱中して本当の充実感を味わえるんだよね。
そんな経験ってあるでしょ？ 例えば応援団
やった人、応援の練習していた日々を思い出
してよ。かなり疲れたらうけど、それでも何
かこう燃えていてさ、楽しかったんじゃない
かな？ それと同じことだよ。そんな感じの
中で学校生活を送りたいって思うんだ。

だから生徒会のあり方ってとても大切だと
思う。活気ある生徒会は活気ある学園に通じ
るひとつの道だよ。みんなで団結してやって
みようじゃないか！そして本当に有意義で
素晴らしい「俺たちの世界」を作っていこうじ
ゃないか！

会室って実になごやかでさ、はっきり言って
これが生徒会室なの？！って驚いちゃうん
だよ。そんな時間があるんでしょ？ なら、
もっと何かやるじゃない。それに仕事をし
ている時もさ、かなり時間のロスが多いんだ
よね。それに誰かが必死で仕事していても、
かたわらで誰かは遊んでいたりでさ、もっと
テキパキとどんどんやれば、それだけ時間が
短縮できるでしょ？ そういったこと考えれ
ば、総務はもっといろいろやる余地がある
よねえ？ あるあるある……。

それと、ここで先生方をお願い。
「確かに今まで生徒会はだらしがなくて、先
生方が出てこざるをえなかったかもしれませ
ん。何とか生徒会を、という気持ちだったの
でしょう。でもそれを助言という形より、も
っとつき放すように、とにかく何でも生徒会
にやらせるという形で表してほしいのです。
最初のうちはそりゃ頼りないでしょう。でも
やっぱり「俺たちの世界」は俺たちの力で直
していきたいと思います。」

そのためにも総務のみなさん、がんばって
先生方にも、そして僕らにも信頼される総務
と、活発な自主性のある生徒会を作っていく

そうして、みんながはっきりこう言い切れ
るようになろうよ。

「学校ってなんて楽しいんだらう。……生徒
会が活発だからだね。」ってさ。



熱中時代だ!!

君は今、 フィーバーしているか?

HIROKO.Y.

—— 出席者紹介 ——

シラケ世代だといわれている私たち。でも一見クールな松高生の中にも、実は、フィーバーしている人がいるのです。今日は「私達はシラケてなんている、フィーバーしてるぞ」という人達に、おおいに語ってもらいました。

司会者…一年の編集委員の女子二人（人は彼女らのことを「金星人＆ザリガニ」と呼ぶ。それだけ変態?!）もう一人の子が裏切ったのでいささか緊張気味。顔が微妙にひきつっている。

※一年生※

A…風が吹いたらどこまでも飛んでしまいそうにかわいい女の子。マンガを読むことに熱中しているようで、ほとんどしゃべらなかつた。

B…あの有名な古代進君の奥さんと自分で、言っているチョットかわっている方!! マンガを読むことと寝ることに熱中!! しゃべりだすときりがなく、しゃべろうと思っても出番がなく、あとで怒る。ガリ勉チャンタイプかしら?!

C…強そうで頼りになっちゃう。5人ぐらいもたれて大丈夫?! マンガを書くことを生きがいとしている心もからだも大きい女の子。

D…体操部に熱中!! 同じ部員のIさんに引張られて特別出演。何かにつけてよく笑う。笑いようごなの?

E…クラブのマネージャーをやっているせいかめんどろみがいい。(将来、とってもすてきな奥さんになるんでは?!) 一見おとなしいが、ズバズバ意見を言ってくれる。F…穏やかにしゃべるが、急所をついている。放送委員会に命をかけて、わぁー目が燃えている!! キザに見えるが、やっぱりクール・ガイ?!

※二年生※

G…よく中学生にまちがわれるというかわいいう男の子。だけどこれでも、生徒会に全力をつくしている、れっきとした二年生なのだ。

H…たまたま生徒会室にいて、出るはめになる。司会者顔まけのしゃべりたがり屋。一見とっても頭がよさそう。アニメとマンガに熱中している松高のルパン三世?! I…笑い出すときりがなくくわいの笑いじょ



☆
☆
海辺の避暑地に
過ぎたあの夏

はなやぐらの群れ
にまやかばな店先

小さな家々借りて
さすやかなテニール
園へぞ

そんな僕たちは

ただ船をながめ

ちんていをなめて

通りまたよ

白いスラン

海をのんびりあふ日は

島までこぎだした

小さなボートで

ただ船をながめ

ちんていをなめて

少し悲しくさけふた...

by Michel Jonasz

illustrated by: TAMAYO+A

う。日本のコマネチ目ざして、日夜、特訓にはげむ松高体操部のエース//

I、きっかけは

ほんのちよつとしたことから

司：今日は、フィバっている方々に集まってもらったんですけれど……。

まず、生徒会に燃えているGさん//

なんていうか、そのきっかけをひとつ……

G：ちよつとはずかしくて言えないなあ。

(笑) (実はこの人、一年の時に、クラス陰謀で生徒会に無理やり立候補させられたんです。そしてその一年の時の「無理やり立候補させる会」の会員が数名同席してるもんだから少々テレ気味。) 推薦立候補合戦で、おれが負けて立候補したの// (やけをおこして)

なんのいんがか、立候補することになっちゃって、初めのうちいやだったんだけど、なんだかんだっていつてうちに、自分で覚がでてきて、前期をやったんだ。遊んでいたんだけど、総務の役員と友だちとしての交流があつて、またそれ

が楽しかったものだから、その交流をもう一期ぐらい続けてもいいんじゃないかと思つて、まあ後期も……。

司：Iさんは、どうですか。

I：ゲゲッ// (驚いて)

H：G君ひとりにしゃべらせたらかわいそうだよ。(悲しみをこめて) (笑)

G：おまえが、しゃべればいいんだよ。(笑)

H：ぼくは、しんがりを務めますから。

G：よくいうよ//

H：まあ、ぼくの場合はね、小さいころからマンガを読むのは、好きだったんだけど絵がヘタでね、中学二年の時カナ、マンガの同好会を知つて、チョットしたきっかけで入つて、その時以来、マンガを書くことに、さうとう熱中したんだ。まわりに影響されてやみつきになつちやつたんだよ。

さあ、ぼくはもう言つたゾ。誰か言つてよ。(一同笑)

司：じゃあIさん。(しつこくIさんを指す)

I：ヒャー。(飛び上がつてしまふくらいびっくりする)

司：体操部に入ろうとしたきっかけは?

I：(笑) きっかけね。(しばらく考えこむ)

II、好きだから

つらくてもやめられない!!

司：もちろん好きでやっているのだから楽しいだろうけど、今までに苦しくてやめようと思つたことはない?

H：やっぱりあつたことはあつたね。特に絵つてやつは自分のが下手に見えるんだ。

上見ればきりがいいんだけど、より高いものを求めるからね。それでうまく書きたいんだけど書けなくて、いわゆるスランプになつてやめようかどうしようか悩むんだ。でもスランプ乗りこえたと絵がうまく見えてくるから不思議なもので。結局、その繰り返しじゃないのかな。悩み苦しむという壁にぶつかることで成長していくんじゃないのかな。

C：全くその通りです。(うなづく)

司：じゃあ、やめたいと思つたことのない人は?

E：ない。私なんか物心ついた時からマンガを書いているから、もう体にしみついてちやつてるの。今はちよつとだらけているからあまり熱中してないけど……。

C：やっぱり好きだからつらくてもやめられ

入学した時から体育系のクラブに入ろうと思つてただけで、球技はだめだからね(自分でうなづく)、それならいっそのことオリンピックなんかでなじみのある体操部に入ろうと思つて。

司：Dさんはどうして体操部に入つたの?

D：そんな……(Iさんを見る)、体操が好きで中学の頃からやつてたから。最初はそんな専門的にやろうとは思わなくて、友達につきあつてる程度だったんだけど、中学の時の先輩がいて親身になって教えてくれるから、私もそれにこたえよう//と思つて俄然やる気になったの。それに一つの技が出来た時のうれしさ。やったものでなきゃわかんないでしょうね。みんな先輩のおかげです。

C：私にもしゃべらせてね、私がマンガを始めたのは、どうつていうきっかけはなかったんだけど、書いてるうちに段々少女マンガにひかれて……。専門的に始めたのはやっぱり中学のころかな。今はもう最高に熱中してるの。

司：マンガの書く方がだから読む方で、Bさん。

H：注目……。

ないんじゃないかな。スポーツならちがつてくるかもしれないけど。

司：ああ、Cさんは神のたすけ。マンガ論になるんじゃないかって心配だったの(笑) それではスポーツに熱中しているIさん。

H：ほこさが変わったゾ。(一同笑)

I：(笑) 調子が悪いと全然できないですね、精神的に何かあるんでしょうね、不調な子がでるとみんな不調になるから……。出来なくなつたりつらい時もあるけど、やっぱりやめたいって思つた事はないわね。(笑) ながらDさんに同意を求める)

H：強制しちゃだめだよ。

D：中学の時は目標を失うとね……。何となくね……。 (Iさんの方を見る)

I：えーっこち見ないで。(一同笑) やっぱり目標がないと練習もワンパターンになつてくるし……。同じ事をやっていると伸び悩みが出てきて、もうどうせとか思つちゃう。スランプなんでしょうね。

H：でも運動部やってサ。すごく気分が、落ちこんでる時なんか、一生懸命やつても出来なくて、横を見ると同じ学年の奴が苦も無くバツとやっちゃつて、すごく差をつけられたと思うようなことな



Ⅲ、シラケ世代、

テレビばかり見てないで

いかなあ。(しみじみと)

I: ええ、体操なんて、てき面ですよね、だってあれは、出来る出来ないの差が激しいでしょう。他のものって割合、段階踏んでいるんだけど……だから出来た時はすごいうれしいんだけど、自分は出来ないのにほかの人が出来るなんていうとすごく落ちこむわね。だけどね出来たときのうれしさをしってるから、ガンバリって思うの。

司: 運動とかマンガとかもけっこうつらいことがあるみたいけど、ちょっとちがった意味で、団体で燃えてるっていうのはどんな具合?

G: はっきり言って、この学校の生徒会は生徒の上に立ってるって感じじゃないわけ。

H: 乗っちゃってんだらう。

G: 乗っちゃってるとなると上等なんじゃない。はしっこに追いやられて、横っちょで、ゴチャゴチャにいるって感じ。(一同笑)中学の時に活発だったから、よけいそう感じるのかもしれないなあ。この間もサ三年生の所に用があって、「生徒会総務です」って言ったら、「生徒会総務ってなんだ」って言われたんだ。あんなときは

あせったなあ、まったく。(一同笑)だから今の一年生が、ぼくらのいい所だけを引き継いでくれて、どんどん向上していったほしいな。

F: ああね。

H: あまりしゃべんない方がいいよ。(笑)

G: なんだだよ、自分ばかりしゃべって……えーと、自己満足かもしれないけど、放送委員会全体の活動としては、うまくやってるし、学校でも目立っていると思う。

でも、中でやっている人とやっていない人の差がすごくあるわけ、おかげさ言え、やっている人は、委員会に、生きがいを感じてみたいだし。やってない人は、自分が活動の中に入っていないからかもしれないけど、何もしていない。(口の中でゴチャゴチャという)

H: 君は他から見てもガンバってる方じゃない。

F: この委員会は特別だから、熱中できる人と出来ない人とがいるんじゃないかな。熱中する人間っていうのは、こりかたまっちゃって、二年や三年には、熱中しているそのものっていう人間が残っているんだよ。

司: 今、みなさんは、あきもせずやっている人ばかりですけど(一同笑)そんな人ばかりじゃないでしょう?!まわりを見回してみてもどうですか。それに世間では、今の高校生は、無気力だと言われているんですけど、私としてはそうでもないと思うんだけど……。

D: 自分自身の利益については、熱中している人は、けっこういるんじゃないのかな。でもこういう公の場になると知らんふりの人が多いんじゃない?

司: じゃあね、世間で言われている無気力な人間はいないって言うこと?

H: そうじゃないんじゃないかな、現代の若者には熱中できるものがないんじゃないかな。ほかの人間なら熱中できても、方向性を持たない?!簡単に言うくと、無関心なんじゃないって選ぶ能力に欠けてるんだと思うよ、僕は……。他の人も何か言えば?僕のワンマンショーになっちゃうよ。

G: ずうずうしい、人に言わせなくせに……

がするね。

E: 私なんか良い例なんだけど、本当に何かに熱中してる時ってすごく勉強もやる気になるんだけど、自分のしたい事が時間に流されて何も出来ない勉強もする気がなくなっちゃう。(みんなうなづく)

司: そしたら親からの弾圧ってないのかな? E: 親からの弾圧があっても勉強がなくなるって不満がたまるからよけいに勉強が、出来なくなる。(一同笑)

H: でもサ授業中、教科書とにらめっこしてあとはテストの前の日ににらめっこすれば、ある程度まともな点取れないかな?

C: 取れますよ、松高では!!

G: 授業中遊んでるとダメかなあ。(笑)

F: この学校に入った時も、ある先生が、そんなこと言ったよ。

H: あんまりしゃべんない方がいいよ、あとで困るから。(一同笑)

F: さっきの話になるけど、私達っていろいろやる事があるから、自分のしたい事に生かす時間が、どんどん削られていっちゃうでしょう。それが他の人から見るとあいつは何もしてない無気力なやつだっと思われんじゃないかな。

H: そうそう、その通り!! なかなかいいこというじゃない。(笑)

司: どっちも中途半端になるってことかな? それならね、勉強の方に熱中すればどうなのかな。(笑)

H: うん、それもいいんじゃない。よくあんちよこな青春ドラマは、ガリ勉が悪役になって、勉強することを責めているけど、もし本人が目標を持っていたら勉強することに喜びを感じていたら(笑)……そういう人間はまれだけど、いないといえないよ(笑)……何やってもスランプがあるから行きづまってくるだろうけど、勉強することこそすくすくいいことじゃない!!

司: ではここには、たまたま勉強に熱中している人がいなかったということですか? H: そういうこと。自発的に出たガリ勉は、大いに肯定するべきだよ。

F: 目標を持ってやっているといいんだけど、親に強制されてやっているとガリ勉では、学校を卒業して与えられていた目標がなくなると、ずるずる落ちこんで最後に首くくったりするんだな。それに、そういう奴ってクラスでも陰険で笑わないんだ

(一同笑)、僕もH君に賛成だな、方向性を持たないんじゃないかって持たせてもらえないのかもしれないけど。親って何でも強制するじゃない、オレも親からしょっ中勉強だけやって、他の事はダメだってよく言われるんだ。そういう親が多くなってきて勉強だけに強制的に縛られてるよ!

E: 実際、親が言うてるだけじゃなくて自分達も、高校へ来るのが当たり前のような感じになってきているでしょう。それで学校から帰って来ると時間に流されて過ごしているって気がするのね。熱中するものを選ぶ能力が無いって言うより、むしろ選ぶとしていないんじゃないかな。何するのめんどくさくて、平和に暮らしてたらそれでいいって感じ……おじん、おばんが多いのね、自分から何かにぶつかっていいこうとしないみたい。

H: でもサ、ある面では親のいうことにも一理あるんだよ。学生は自ら勉強の道を選んできたのだから大事な勉強を完全においという好きな事やるのはまちがってると思うんだ。人生の三分の一も行ってない時点で、何だかんだって少し早い気が

IV、飛びだせ!!

青春——今燃えるとき

※座談会が終わって※

実を申しますと、これは「座談会 Part 2」でありまして、当然 Part 1 もあったわけでありまして。Part 1 の方に出席していただいた方々、お忙しい中を我々のために、付き合わせてしまいまして、あげくの果てにこちらの不手際のため、ボツになってしまいました。申し訳ありません。この場をかりておわび申し上げます。

☆ ☆
いろいろな意見が出ました。考えさせられました。むずかしいご意見もたくさん。私も、普段何気なしに、暮らしてきた日々が、もったいなかったような気がします。中の意見にもあったように、今しか燃えられないのです。みなさんも、見つけてください。自分の一生の思い出になるような熱中できるものを……!!

☆ ☆

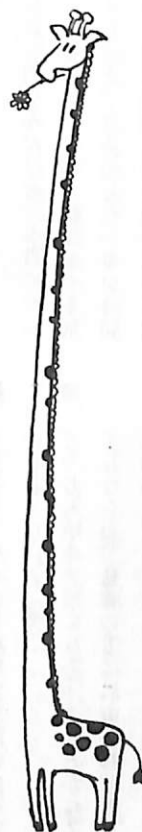
司：最後に、熱中していない人はどうすればいいですか。
A：熱中できるものって自分にとって、最も大切な仲間って感じでしょ、それで自己表現ができるものに熱中するのが better だと思うの。それには、自分をみつめることが大切なんじゃない？

H：熱中するものを見つけるのは、自分をよくみつめることだけじゃないと思うよ。自分の心にすなおに、やりたいと思った物を取り入れて、やってみることだと思う。何事もやってみなくちゃわからないものな。

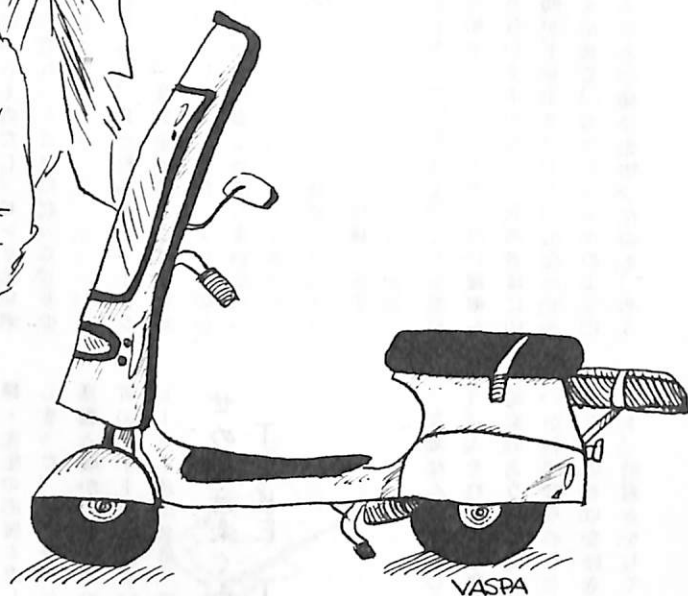
G：そうだね、自分が一度これだと思ったことはとことんやるべきだよ。
青春時代しか燃えられる時はないもののネ

司：Iさん、ここらで一つどうですか。(Iさんは笑ってごまかそうとする)
H：僕はしゃべりたがりだからなー(笑) Iさんどうぞ。(Iさんはしつこく笑ってごまかそうとする) 笑ってごまかさないでよ。

I：別に笑ってごまかしてるわけじゃないけど……自分がね、松高に入って燃えられるものが見つかったって事は本当に良かったと思いますね。ただ学校に来て、家に帰ってさしずめ「太陽にほえろ」なんかを見てね(爆笑) 何となくすごしてる人って何かたりないんじゃないのかな：たりないっていうとバーみたいに聞えるけど、(一同笑) 自分ではそうは思わないのかもしれないけど、ちょっと寂しいですね。でも自分で熱中できるものを見つけれないのなら、かわいそうだなって思います、人生の内で燃えてられる時ですごく短いし、そういう事の出来る高校時代ですごく大事だと思うしね。



寄稿 KIKOU



MUSIC COMPANIONS

「音楽になんか興味ないよ」て言う人、少ないと思うんです。きっとだれでも、何かしら興味があると思うんです。フォークであろうと、歌謡曲であろうと、ロックだてて演歌だてて童謡だてて応援歌だてて……。あげればキリがないけど、きっとみなさんも、好きなジャンルがあると思うんです。

だてて我が松高の体育祭にしても、輝松祭にしても音楽はつきものだし、ピンク・レディがレコード大賞取ったことにだてて、多少は興味あるでしょう？

そこで、私たちは、我が松高のミュージシャン(様)たちに、音楽をどのようにとらえているのか、どういう考えを持っているのか、ちょっとうかがってみることにしました。

歩み

佐藤 永子

それは、クレヨンでおたまじゃくしを塗り潰すことから始まった。白と黒の冷たい鍵盤をどこかぎこちない十本の指が、我無者羅に叩いたその瞬間がドレミファ……との出会いであった。時にまかせて、七つをパズルのように組み合わせることの喜びを知ったのも、そう

昔ではない。そいつに似合う服を着せてやれば何と世界にひとつしかないという歌ができた。当時、自作自演街道マラソン大会に出演中のランナー達の存在は、私に多くのものを与えてくれた。そして松原高校入学後、それがかなりのエネルギーとなり一九七八年のステージで爆発した。十五分足らずの短い間、火の粉を舞い上げていたが、スタッフ・お客様・先生の応援も虚しく、ついに燃えつきってしまった。後に残ったものは、すがすがしい感動と暖かい拍手のぬくもり。その日、赤や青のライトをまばゆいばかりに浴びていた、ヒーロー達の名は、音楽。

せめて音楽ぐらい

TAKE IT EASY

にいこう

佐橋 佳幸

音楽なんて、難しく考えることはないと思う。人それぞれの楽しみ方がある訳だし、評論家のように常に一種の概念を持って接していかなければならぬこともない。自由に自分の好きなものだけを好きなように聴けばいい訳だし、前置きをしておいてから僕自身のこと

を書きます。

僕の場合、実際に音楽を演奏したり創ったりしているの、ちょっと違う角度から聴いてしまう場合があるのだが、丁度今から三年程前に「はっぴいえんど」という日本のロックグループのレコードを聴いて、地球がひっくり返る程のショックを受けたのをきっかけに、現在に至るまで同じ考えでずっと音楽に接してきているつもりだ。それは「唄の素晴らしさ」という点であり「はっぴいえんど」の唄は、歌詞といい曲といい、斬新なアレンジといい、それらがかもし出す独特の雰囲気(何かしら風景が目の前に浮かんで来た時、頭のとっぺんから踵まで閃光が走り抜けたようになつたのを今でも覚えている)といい本当に素敵だった。つまりそれ以来、どうもインストルメンタル(唄のない音楽)は苦手になつてしまった……というよりジャズ、例えばウエスやキースジャレットのように唄心の感じられるインストならともかく、薄っぺらで余りに味気ないものは受け付けなくなつてしまった。最初に書いた「唄の素晴らしさ」というのは、いかに熱い演奏をしているかという点にもつながる訳だ。

まあ勝手なことばかり書いたけど、こんな

堅苦しい文章も絵空事の如く吹き飛ばしちゃうたのはサザンオールスターズです。本当に滅茶苦茶です。(今井くん早くレコード録音してネ！)

何かにつけて感動する

今井 雅彦

何かにつけて、音楽って、感動することあるよネ。ウキウキして、口ずさんでみたりして。音楽って、自分で楽しめば、それでいいんだよネ。

季節につけて、好きな曲ってあるでしょ。去年の夏は「勝手に……」で、にぎわったし、人それぞれあるよネ。でも、思い出につけて感動する曲って特にいいよネ。○×の頃、○×△があつて、そんな頃、○×△って曲が好きだった……なんて思い出してたら、急に、その曲を聞きたくなつたりして。

ところで、松高に、前途明るい、すばらしいシンガーソングライターがいるのをご存知ですか?! 三年のエポさん、OBの清水さん、おまけで二年の佐橋くん。エポさんなんか、サrfファースタイルでのステージ、ど、ちを楽しんだかわからない程、感動したよネ。

話をもどすけど、音楽って、リラックスして、その曲の良さを感じとれたら、それでいいと思うのデス。かんけつ!!

しかし、新春早々、こっちの財布の中身もよそに、お目あてのレコードが我がもの面して店に並ぶのが、くやしいんだよネ。



篠 宏昌

僕が音楽に興味を持ちだしたのは、小学校五年の時、ありふれた話だが、その時ビートルズを聞いて感動したんです。この頃、一緒にレコードを聞いていた友達が二人いて「三人でバンドを組もう」と言いだして、パートを決めたんだが、二人はドラムとベースをやるって言つて僕に何をやらせると聞くから「レポリューションの前奏やってみるのがいい」と答え

た。(この頃、僕はまだ白痴だった)で、それはリードギターだと言われてギターを始めた。だが、ハ長調の音階が分らないまま小学校を卒業したのを覚えている。いまだにギターはやっていないけれど、中二まではとにかくうるさい曲ばかりやっていた。中三のあたりから自分の本当に好きな音楽が分らなくなっているうちに死んでいる。最近ではクロスオーバー、ユーミンがなかなか、吹奏楽もおもしろい、もちろんロックも好きだけど。

なんで好きな音楽が変わってきたかと言うと、音楽の聞き方が変わってきたからなんです。前は元氣ハツラツにロックを聞いていれば気がすんだけど、最近は自分の心境に合わせて音楽を聞くようになったんです。悲しい事や悩み事がある時、まして失恋でもしたら徹底的に悲しみいっぱい曲を集めて、青くなるまで聞くんです。もしうれい事でもあれば、ギンギンのハードロックに合わせてチャッー(ギターを弾いていて飛び上がる)し時と場合によって、随分違うものを聞いているんです。

では、最後に本当に好きな音楽は何か、それは絵が自然と浮かんでくる音楽なんです。その点でユーミンの曲は本当に感動しますね



エ。ユーミン自身も言っていたけれど、絵が浮かぶかどうかを基準として音楽を聞いているそうです。自分の曲も絵が浮かばなければ書き直すと言っていました。最近日本のギタリストも絵が浮かんでくるアルバムを出しているから、よくカンゲキ!

私の音楽

松尾 明子

私の音楽といっても、私はまだ自分の音楽を見つけるほど音楽を知っていないと思うのです。が、強いて「私の音楽」というものがあり方の希望を言えば、それはクラシックであってジャズであってロックでソウルでクロ

スオーバーでETCでありたい。つまり超個性的というのか、そんな感じであってほしいと思っています。私達は今、ロックに重点を置いてやっているのですが、それもロックに限ってやっているのではなく、他のジャンルへの一過程だと思っています。

だんだんと音楽の幅を広げていくと、最後にはさっき言った妖怪音楽ができればと考えているのです。

まあ私はまだ15才、エレキを持って一年七ヶ月、若いのです。ガンバリマス。

みなさんそれぞれ独特の意見や考えをお持ちです。音楽はたしかに楽しくしてくれと思うんです。何かモヤモヤしてる時に好きな曲を聞けばフッ飛ばっちゃうなんてことあると思うんです。それに英単語はナカナカ覚えにくいせに、好きな唄はすぐに覚えちゃうなんてことありませんか?

とにかく、やっぱり音楽ってステキなことだと思っんです。だって音を楽しむってことですもんね。

原稿を書いて下さった、ミュージシャンの皆様、本当に協力ありがとうございました。

おわり



時の間に

はざま

風が舞う

masaru yumi

「アンネの日記」展を見て

三 A 菅原 多佳子

八月十日から八月十五日まで銀座松阪屋で「アンネの日記」展が開かれた。母が妹と一緒に十四日に行き、そこでたいへん感銘を受け帰って来たので、最終日の八月十五日、母の勤めで、私も行って見ることにした。

そこには、アンネの日記の他、アンネに関する物や、当時のユダヤ人虐殺に関する写真など、色々な物が陳列されていた。あまりにたくさん人で、なかなか前に進まない状態だった。その中で、ハンカチを押さえないながら見ている母親の姿が目立った。私も予想以上の残酷さのユダヤ人虐殺、そしてアンネの生き方に感心し、これに関して、レポートを書くことにした。

初めに、社会的背景として、ドイツの動きを述べて行きたい。

ドイツは第一次世界大戦に敗れた結果、帝政が崩壊してワイマル共和国が成立したが、ベルサイユ講和条約が、戦争の全責任を一方的にドイツだけに負わせ、過酷な条約を課し

たため、ドイツ国民はインフレと失業者のはらんに苦しんだ。国民はこれを、ベルサイユ条約を締結のみにした共和国の政治家たちの裏切り行為によるものとして、苦境打開を旧帝政時代の専制的、軍國的伝統にのっとった全体主義体制に求めるようになった。この波に乗ったのが、ヒトラーのナチ党である。

ナチ党は、一九三〇年と三三年の選挙で国会の第一党となり、ヒトラーは三三年一月、首相に任命された。政権をとると間もなく、彼は国会を解散し、ナチ党以外のすべての政党を禁止して独裁権をにぎった。天才的煽動政治家のヒトラーは、ドイツの衰退をユダヤ人の左翼分子の責任に帰し、アリアン種の優秀性を説いて狂熱的な国家主義を鼓吹した。ドイツの過去に深い根を持つヒトラーの国家主義は、多くのドイツ国民の共感を呼んだ。

ヒトラーは政権をにぎってから数年の間に反ユダヤ政策を着々実行に移した。まず、ユダヤ人の市民権をはく奪し、非ユダヤ人との婚姻を禁じ、シナゴク（ユダヤ寺院）を破壊し、ユダヤ人の財産を没収して数千人のユダヤ人を投獄した。ついには、ユダヤ人をアリアン種の学校から締め出し、商業や自由職業につくこと、土地所有、非ユダヤ人との交

際、公園、図書館、博物館への出入り、電話交通機関の使用までも禁止し、ゲットーに住むことを義務づけ、六歳以上のユダヤ人に黄色い星のマークを胸につけさせた。

国内での勝利に酔ったヒトラーは、世界征覇を夢みて一九三九年九月、第二次大戦の口火を切った。開戦数カ月で宿敵フランスを破り、中立国を侵し、全ヨーロッパを手中に収めると、ヒトラーは占領地域で反ユダヤ政策を強力に推進した。彼は「ユダヤ人問題」の解決は、ユダヤ民族の絶滅以外にないとして、ユダヤ人を片端から逮捕して「殺人キャンプ」へ送った。その多くはポーランドにあったが、最も有名なのはアウシュビッツである。ドイツ軍はソ連に侵入した時、そこでも数十万のユダヤ人を虐殺した。ナチに制圧されたヨーロッパのユダヤ人は、死を待つばかりであった。多くのユダヤ人が、自殺を選んだ。

一九四五年五月、ナチ・ドイツは敗れてヨーロッパの戦争は終結した。そして一九四七年一月、国連はイギリスのパレスチナ委任統治に終止符を打って、同地をアラブとユダの二国家に分割することを決定した。アラブ人は先住権を盾にこれを拒否したが、ユダヤ人は一九四八年五月十八日、テルアビブで独立

を宣言し、ここにユダヤ人の二千年来の夢であったイスラエル国が誕生した。

以上のことを背景として述べていきたい。

アンネ・フランクは、一九二九年六月二日、フランクフルトの富裕な実業家である、オットー・フランク家の次女として生まれた。彼の実家は由緒あるユダヤ人系のドイツ人であった。アンネの幼少の頃は、特に目立った存在でもなく、特に頭がいいわけではなく、普通の読書好きの女の子であつたらしい。私たちは、アンネは天才的な少女であつたんだろうと思いがちである。しかし、それは大きな思い違いで、どこにでもいるような女の子であつたらしい。性格的には、正義感が強く、友だち思いであり、物事を明るく考える性格だったようだ。

アンネは一九四二年六月十二日の十三歳の誕生日に、父から日記帳を贈られ、その日から架空の友だちキティにあてて日記を書いている。

以下アンネの日記を抜粋しながら書いていきたい。

ユダヤ人迫害

——一九四〇年五月からは、いい時代が急激に去りました。第一は戦争です。次いで降伏となり、ドイツ軍がやって来ました。わたしたちユダヤ人の苦難が始まったのはこの時からです。ユダヤ人弾圧の布告が次から次へと出されました。ユダヤ人は黄色い星印をつけなければなりません。ユダヤ人は自転車を出しなればなりません。ユダヤ人は電車にも自動車にも乗れません。ユダヤ人は午後三時から四時までの間しか買物ができません。しかも「ユダヤ人の店」と書いてある所だけですよ。ユダヤ人は夜八時以後は家の中にいなければなりません。この時間を過ぎると、自分の庭に出てもいけないのです。ユダヤ人は劇場、映画館、その他の娯楽場へ行くことができません。ユダヤ人は一般のスポーツ競技にも参加できません。プール、テニスコート、ホッケー競技場、その他一切の競技場には入れません。ユダヤ人はキリスト教徒を訪問できません。ユダヤ人はユダヤ人学校に通わなければならない制限がありません。——（42・6・20）

会場には、パスポートや、ユダヤ人のつけ

る星（ダビデの星）がならべられていた。パスポートには、ユダヤ人を示す「J」のスタンプが押されていた。また最初の「ユダヤ人狩り」が行なわれ、アウトハウゼン収容所に向かう人たちの写真があった。小さな子供がダビデの星をつけ、両手にたくさん荷物を持って家族と、収容所に向かう写真があった。その人たちの顔はみな無表情であつたのが、強く印象に残っている。

隠れ家へ

——呼び出し状ノそれが何を意味するのか、だれも知っています。わたしは強制収容所とさびしい監房を想像しました。お父さんをそんな所へやるのでしょうか？（中略）彼女（アンネの姉、マルゴット）は呼び出し状はお父さんに来たのではなくて、自分に来たのだと言いました。わたしはあまりの恐ろしさに、泣き出してしまいました。マルゴットはまだ十六歳です。こんな少女を、本当に一人ぼっちで連れて行くのでしょうか。いいえ、マルゴットは行かせません。お母さんがそう言いましたもの。お父さんがいつか、隠れ家へ移る話をした意味が、やっとこれでわ

かりました。隠れるといっても、どこへ行くのでしょうか。町の中かしら、それとも田舎かしら。住むところは家かしら、それとも小屋かしら。いつ、どうやっていくのかしら……？

(中略)翌朝五時半に、お母さんに起こされるまで目がさめませんでした。幸い、日曜日ほど暑くなく、一日中、雨が降っていました。わたしたちは、できるだけ着物を持って行きたいばかりに、まるで北極へでも行くようにたくさん着込みました。わたしたちのような立場にあるユダヤ人なら、スーツケースに着物を入れて出かけるなんて夢にも考えないでしょう。わたしは下着を二つ着て、パンティ―を三つはいた上にドレスを着て、その上にスカートをき、ジャケツを夏のコートを着て二足の靴下の上に編上靴をはき、毛糸の帽子をかぶり、スカーフを首に巻き……まだありました。わたしは出かける前に、窒息しそうになりましたが、だれも何とも言いませんでした。——(一九四二・七・八)

隠れ家となった家は、奥行きが深く、前部と後部に分かれ、中間に日光を取り入れる空間を造り、廊下でつなげるのが普通で、後部の

建物が隠れ家になった。アンネの家族の他にファン・ダーン家も住み、七人で住まなければならなかった。(のち八人になる)

会場には、隠れ家の入口に置かれた回転本棚が、本物と同じように作られていた。色々工夫して、必死で考えたのだろう。一見何げない本棚だった。しかし、そこでの生活は苦しかったようだ。窓も開けられないし、大きな声で話しあってはならない。その上、外に出るはいけない。また昼間の食事のしたくもできない。こんな状態では神経がおかしくなるのはあたりまえだ。物音をたててはいけないような生活、ながめているだけの外、私たちがなら、こんな生活に何日間辛抱できるだろうか。アンネは、そんなところに二年間以上も暮らしたのだ。自分たちはこれからどうなるかわからない不安を抱いて……。

しかし、けんかも激しくなっていたようだ。アンネの日記には次のように記されている。

——この人たちは、日増しに仲が悪くなります。食事のときも、食事を口に入れるためののはかは、だれも口をあきません。何か言えば、誤解されるか、だれかをうるさがらせる。

からです。わたしは毎日、憂うつにならないように鎮静剤を十錠飲むよりは、心から笑った方がいいのですが、わたしたちはほとんど笑いを忘れてしまいました。こんなに憂うつだと、しまいには顔が長くなって、口の両端が垂れ下がりはしないかと心配です。他の人たちも同じです。みんな恐怖と疑惑の念をいだきながら、恐しい冬の近づくのを見守っています。——

アンネも精神的に、だんだん衰弱していくのが、はっきりと表われている部分がある。

——夜寝ているとき、わたしはお父さんもお母さんもうちに、自分だけが牢屋にはいつているような錯覚にとらわれます。またときどき、道ばたにさまよっていたり、隠れ家が火事になったり、夜、ゲシュタポが来て、連れて行かれたりするような場面を想像します。すべてが現実のようにありありと目に浮び、間もなくそういうことが起こるような感じがします。——

十四歳のアンネがこんなにも衰弱しているなんて、考えることができるだろうか。アンネは、自分のことよりも、他の人のことを心

配する性格だったので、無理に、自分の感情を押さえ続けた結果、こんなにも衰弱してしまったのだろう。

アムステル街頭でユダヤ人を捜すドイツ兵の写真があった。そこはひっそりとしていてうす気味悪いほどだった。ふっと感じたのはそのドイツ兵たちは、ユダヤ人狩りをする時どんな気持ちなのかと疑問を持った。自分の娘と同じくらいユダヤ人の少女を連れていかなければならない時、彼らには人間の血が流れていたのだろうか。

隠れ家の発見から収容所のアンネ

八月一日で日記は終わっている。しかし、その時アンネはまさかこれが最後だとは思わなかっただろう。

一九四四年八月四日。隠れ家はゲシュタポにより発見されてしまった。

数日後、アンネたちはオランダにおける最大の強制収容所のあるベステルボルクへ連れて行かれた。そこでの生活は、我慢し易く、天候もよく、アンネとマルゴットは同じ年頃の子供たちと一緒に暮らしていたらしい。

後、ポーランドのアウシュビッツ収容所におくられるが、そこは女たちも男と同じように、労働のできる者でできない者にえり分けられ、年寄り、小さな子供、赤ん坊、身体が弱い者は、すぐガス室に入れられて殺された。残された者は裸にされ、頭をクリクリ坊主に剃られ、シャワーを浴び、ボロを着せられ、そして腕に番号を入墨された。しかしチフスが蔓延していたので、女たちはすぐ労働はさせられず、隔離所に入れられた。

当時のアンネを、アウシュビッツの収容所で生き残ったある婦人は次のように語っている。「フランク家の三人の女のうちの一番年のいかないうちのアンネが、最も勇敢で元気がありました。彼女は何時間もつづいた収容所の辛い行進中も、しっかりした態度を保ち、泣きごとなどは言いませんでした。彼女は乏しい食物をいつも母親や姉に分けてやり、お腹がすいている人には、とっておきの小さなパンを惜し気なくやりました。彼女は勇気と精神力をもって、あらゆる苦難を耐えしのびました。彼女は立派な子供でした。実に驚くほど立派な……。」

会場内には、収容所に関する多くの写真が

あった。ガス室へ向かう老婆と子供たちの写真にはショックを受けた。後姿しか写っていないが、三歳ぐらいの子供と、五歳ぐらいの子供が、下を向いて歩いていた。その子供たちは自分がこれからどこに行くのかわかっていただろうか。

積み上げられた靴の山の写真もあった。小さい靴が目立ったことは忘れられない。あれだけたくさんの子供や老人、婦人たちを殺す必要がなぜあったか、改めて考えざるを得ない気持ちになった。

刈り取られた女性の毛髪が実際にあった。それは生色の一部にされるのである。

三段ベッドには、一段に二人ずつ、時には三人寝かされたという。飢餓・重労働の上になんか状態が続いては、まさに、地獄の日々だったに違いない。

アンネの死

一九四四年一〇月三〇日、アンネはマルゴットと、ドイツのベルゲン・ベルゼン収容所へ移された。その四ヶ月後、一九四五年二月

二人ともチフスにかかった。以下、父オットーの証言による。

マルゴットはアンネの上の段のベッドに寝ていたが、ある日彼女は起き上がりうとして床へ落ちてしまった。すでに衰弱しきっていた彼女はショックのため死んだ。マルゴットの死は、ナチのどんな極悪非道な行為もついにし得なかったことをした。

姉の死でアンネの気力はガクリくじけた。マルゴットの死体が運び去られるのを見たアンネは、ベッドの中で頭を上げてつぶやいた。「お父さんもお母さんも、もう死んでいるに違いないし、これでわたしは家へ帰る目的がなくなった」

それから数日後、連合軍の部隊がすでにフランクフルトに入っていた三月はじめのある日、アンネはローソクの灯が消えるように、静かに息を引き取った。

当時のベルゲン・ベルゼン収容所のようなすを英国軍将校グリーン・ヒューズは次のように語る。

死骸の山が収容所中のいたるところに、小屋の内外を問わずに横たわっていた。中には生きていた時のように寝棚に横になっている者もあった。焼場の傍には死骸の一杯つま

た沢山の墓所があり、死体を一杯つめたまま、まだ土をかけられていない穴も一つあった。

小屋にはやせ衰えて病気にかかった囚人がありとあらゆる状態であふれていたが、百人しか入れない所に千人以上もつめこまれている小屋もあった。

死体のいっぱいだった穴の写真があった。死体といってもまったくわからず、ただゴミのようなものが、見えるだけである。しかし

その不気味さには、思わず目をそらしてしまふほどだった。

「アンネの日記」展を見終ったのち、私はしゃべる気力を失った。どんな逆境にあっても決して希望を失わない、アンネの崇高な精神と純真さに心を打たれ、ユダヤ人虐殺の残酷さに、人種差別の実情をまざまざと見た気がした。



by
M. Yoshino

行事報告



Masaru Yumi

☆ OUR SCHOOL LIFE (松高365日)

1学期

4月8日 始業式

〃 10日 入学式

〃 11日 対面式

5月4~6日 1年H・R合宿

〃 8日 2,3年遠足 (2年鎌倉 3年フジ・スズノボリ)

〃 21日 体育祭 (青組優勝)

〃 30日~6月2日 中間テスト

7月7~11日 期末テスト

20日 終業式



2学期

9月1日 始業式

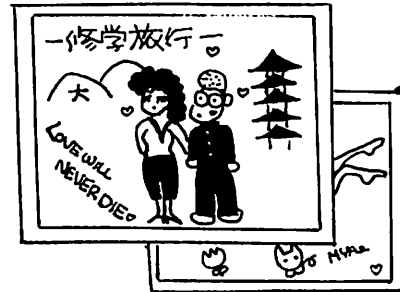
10月22~25日 修学旅行(京都)

11月1~6日 中間テスト

〃 11日 開校記念日

12月13~16日 期末テスト

〃 25日 終業式



3学期

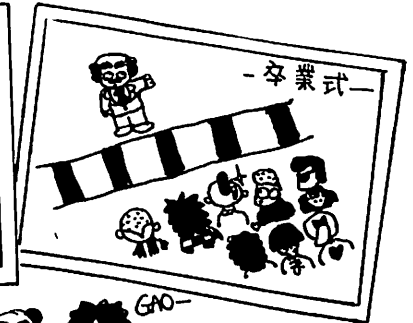
1月8日 始業式

〃 24~30日 3年学年末テスト

3月7~10日 1,2年学年末テスト

〃 13日 卒業式

〃 20日 終業式



by: まえめのまこ

大島H・R合宿

E組・男子

入学して最初の大きな行事、それがこの合宿だった。「なんでわざわざ、大島なんか行くのかな」なんて最初のうちは考えた。しかし、今考えてみると、行ってよかったと思う。それは、あの二泊三日の合宿の間に、クラスメイトが、話しあったりして、いく中で友達に慣れたということである。ほくももちろんその中の一人だろう。あの合宿の期間中に緊張がとれたということだろう。合宿を境としてクラスとしての活動が活発になったといえる。計画の中で、ほく個人として残念だったのは、三日目の晩にする予定のキャンプ・ファイヤーが中止になってしまったことだ。(なぜなら、ほくは、レクリエーションの担当で色々な事をする予定だったから。)それでもけっこう盛り上ったみたいだった。予想以上に。夜は、夜中まで話をしていたりしたが、二日目の三原山の登山でバテてしまった。(ほくも例外ではなかったみたいだったけど。)三日目は、雨にたたられてしまった。だからほとんど「おみやげ」を買いあさっていたよ

うなものだった。帰りの船は、行きとは違ってかわって席(?)の割りあてが狭かったのだ、みんなで(もちろんクラスの連中)トランプなどをしていた。やっぱり、大島へ行って来てよかったなと思った。そして、友達が出来たことはいいことだなとあらためて思ったりもした。

C組 タンタン

大島……東京近辺からあまり出たことのない私にとって、魅力的な言葉でした。そこへ行かれると聞いた時のうれしさ。入学して、すぐでしたので友達と楽しめるかと心配でしたが、行きたくてうずうずしていました。ただ、船に五時間も乗るといのが気がかりでしたが……

当日、心配していた船にはたいして酔はず無事に大島へ着きました。思った程、ふつうの港と変わってないので多少がっかりしましたが、それでも、港のにおいを嗅いで、とうとう来たんだという実感がわいてきました。その晩クラス討論会を開き、我クラスでは「友情と恋愛」について話し合いました。意

見は活発に出て、話しはつきることがないようでした。その日は皆、疲れていたせいかなぐ眠り、翌朝元気に三原山へ向いました。何よりも良かったのは、火山へ向う時の道うっすらともやが立ちこめた冷気の中、ごろごろ音がっている岩石を踏みしめて上がって行くと、雲が私達の中を吹き抜ける。寥々とした風景。あまりのすばらしさに私は愕然とした。ならいいのだが、私はキヤアキヤア騒いでしまった。あれから半年しかたっていないが、今一度そこへ行ったら私は、前と違う感動を味わえるような気がします。その晩がいよいよ最後の夜。明日帰ると思うと妙にむなしくて眠るのがおしかったのですが睡魔に負け、楽しそうな友達の話し声を守歌に眠ってしまったのが残念です。帰りはあいにくの雨でうっとうしいでしたが、中々雨の港も良かったと思います。海は荒れ、船はジェットコースターのように揺れたので少し気分が悪くなりましたが、いざ食事となるとお弁当の他に売店のフランクフルトをも食べてしまいました。私が家を出る時に母が言った「おまえは絶対船に酔うよ」という予言は遂にあたらず、私は大いばりで家に帰ったのです。

体育祭

晴れ渡る空の下（五月晴れでしょうね、きっと）78体育祭は、五月二十一日、行なわれました。（冒頭、すごく天気を気にしてますけど、曇っている日は何かしらける気がしてしかたがないのです。）とにかく、あっという間に過ぎてしまったようで、あなたにとって今年の体育祭はどうでしたか？

まずは競技から。クラス全員リレーは、手に汗にぎる激戦。どの顔を見ても、真剣そのもので輝いていました。結果は一年A組、二年C組、三年A組がそれぞれ優勝。そして今年、男子と共に女子の騎馬戦がありました（私めも、一応出場したのです）。女子は帽子を取るまでで、さすがにこの時は女という意識を忘れてがんばりました。けど、男子のにはどうしてやる前の説明と終ってからの話が長いのでしょうか？ そうそう、ここでルールが徹底せずもめましたね。

そして忘れてはならないのがあめさがしとパン食い競走。これは見ている人にとっては

楽しくてしかたないものです（ゴメン、やっている人は真剣よね／＼一応）。さて何と言っても迫力があつたのは、男子の棒倒し。全員歯をむき出しにして、まさに男そのものという感じで、男らしさをひしひしと感じました。

ここで新任の先生にインタビューをしました。

Q「すみません。あの編集委員ですけど、松高の体育祭、いかがですか？」

A「とってもすばらしいわあ。」

「みんな、あれだけ打ち込めるんだから、他の面（?!）でも同様に、頑張ってもらいたいワあ」

と、何か、ズバリ指摘されている場面もあったような気がするけど、ここはめげずに。

「松高の体育祭」と言えば、応援団と言うように（私はそう思うのです。）応援団について書いてみることにしましょう。



ここで、一般の人にインタビューしてみました。

Q「松高の応援合戦いかがですか？」

A「和気あいあいのご夫婦に

A「ウーン、特になし！」

ゴルフスタイルのおじさまに

A「援団の費用がちょっとかかりすぎているんじゃないの？父兄に負担がけっこうかかるようだし。まあ、度が過ぎないように、頑張ってもらいたいですね、でも、おもしろかったですヨ」

と何か笑顔いっぱいまで応じてくれて、うれしくなっちゃった。



まずは、去年、大活躍だったOBの方々がいらしたので（実はいるか、いないか必死に探したのです。）インタビューをしました（けど、一年生は、知らないよね、すみません。）。

Q「あの編集委員ですけど、今年の松高の援団いかがですか？」

A「ソウ、去年より援団、活気がないみたいさえないねえ」（元青組団長・永山さん）

A「相変わらず、応援合戦、おもしろかったけど、どのチームも、もうちょっとがんばってほしいなあ」（元白組団長・西さん）

A「よかったです。さすが松高生だと思いました」（元赤組団長・草野さん）

例年通り、応援合戦と……華麗な催し物を披露して、今年は白組が優勝。準優勝は赤組そして青組と。

白組は「スターウォーズ」でスタート。三

な良くがんばったと思います。それから、応援団のところで、去年のOBにだけインタビューして、今年の団長さんの意見は？と聞かれると、（資料不足でした。）

そして79体育祭をも成功させるよう、松高のスクールカラーを、いつまでも保持していきたいですね！

では乱文ながら以上で締めくくります。

ご愛読ありがとうございます。

ty Ako



さあ、いよいよラストです。とにかく、どこの組も、それぞれよくやりました。結果は青組、総合優勝。（無事、V3）本当にみんな



輝松祭

今年も去年同様「輝松祭」という名称で、秋のおいごはんの感じられる九月二十三日、二十四日両日にかけて行われました。

今年は(Try to the limit)という文化祭執行委員会からの統一テーマに基づき、様々な団体が楽しい出しものを行いました。

それでは、展示・芸能の二つの部門の数多いプログラムの中から、いくつか取り上げてみましょう。

〔展示〕

展示は、一年生は映画、二年生はおばけ屋敷・劇、三年生は「見て聞いて参加する」そんな傾向の出しもの、という感じでした。もちろん、その他にも楽しいものもいろいろありました。

一年生は、松高での初めての文化祭だったにもかかわらず、けっこう準備に時間のかか

るジャンルに挑戦した様です。映画をつくったクラスなんか、そのクラスの中で、役者・監督・カメラマンなどに分かれて、どうにかまとまったものを完成させようと、みんなが協力し合っていました。

その結果、一年E組は映画で優秀賞、一年F組は合唱で奨励賞を獲得しました。もらえなかったクラスも文化祭で、何らかは得たものがあつたことでしょう。

去年好評だった「おばけ屋敷」。今年も二年生の二クラスがトライ。

暗幕代りにダンボールを黒く塗り、お経を流したりマネキン人形を置いたり、入口で入場者の人数を制限したり、いろいろ工夫していました。

「おばけがエッチだ」とかいいう声もあつたけど、みんなけっこう興味本位で入っていたみたいでした。

人形劇は、準備段階で人形づくりに追われて人形の動かし方に練習不足があつたようでした。でも売りに出せる位のお人形の出演で二年B組が特別賞、二年E組が優秀賞に選ばれました。

二年生は、クラスとクラブ・有志などとのかけもちで極端に忙しい人も少なくありませ

いようです。

次にクラブ・委員会の方に視点をあててみましょう。

クラブ、特に文化部は日ごろの活動が地味なだけに、文化祭ではそれぞれの持ち味を生かそうと一生懸命です。文化部はどうしても「堅苦しい」という風に考えられがちですが、けっこうおもしろかったです。

文化祭唯一の「食べ物屋さん」の食物部パーラーも「教室」というイメージを少しでも消して、明るい雰囲気を作ろうと四苦八苦していました。

委員会の中では「松原高校の徹底調査・古本市」の図書委員会の企画は、なかなか興味をひくものだったと思います。全校生徒へのアンケートの集計がたいへんだったそうですが、内容もていねいにまとめられていたし、委員会としてあそこまで仕上げるなんて、さすが優秀賞を取っただけあります。

〔芸能〕

ところで芸能部門は……。まず音楽室では有志の人たちが、部屋いっぱい声を響かせていました。文化祭前の練習にきびしい制限

〔後夜祭〕

さて最終日の夕方五時から後夜祭でした。前日から降り続いていた雨もやっと上がり、ちょっとグランドコンディションが悪かったにもかかわらず、大勢の人たちが参加しました。内容はバンド演奏やダンスなどです。ダンスはポピュラーなものからユニークなリ

ンダンスはポピュラーなものからユニークなリ

ンダンスはポピュラーなものからユニークなリ

ンダンスはポピュラーなものからユニークなリ

ンダンスはポピュラーなものからユニークなリ

んでした。

自由参加だった三年生も全クラスが参加しました。例年、三年生には楽しい出し物が多

by 図書委員会

“松原高校の徹底調査”より

※あなたのおこづかい？ (学年別)

	1 年	2 年	3 年
決まっている	83.6%	80.4%	77.7%
“ いない	15.6%	17.0%	19.4%
五千 以上	18.6%	34.4%	55.0%
三千～四千	38.2%	37.8%	30.0%
二千～三千	26.5%	18.9%	8.8%
千 以下	16.7%	3.3%	5.0%
	0.0%	0.0%	1.3%

※読書は好きですか？

	男子	女子
はい	50%	74%
いいえ	47%	25%

※そのわけは？

- ・めんどろ
- ・なんとなく
- ・よみたいものがない (良い本の選び方がわからない)
- ・テレビの方がいい

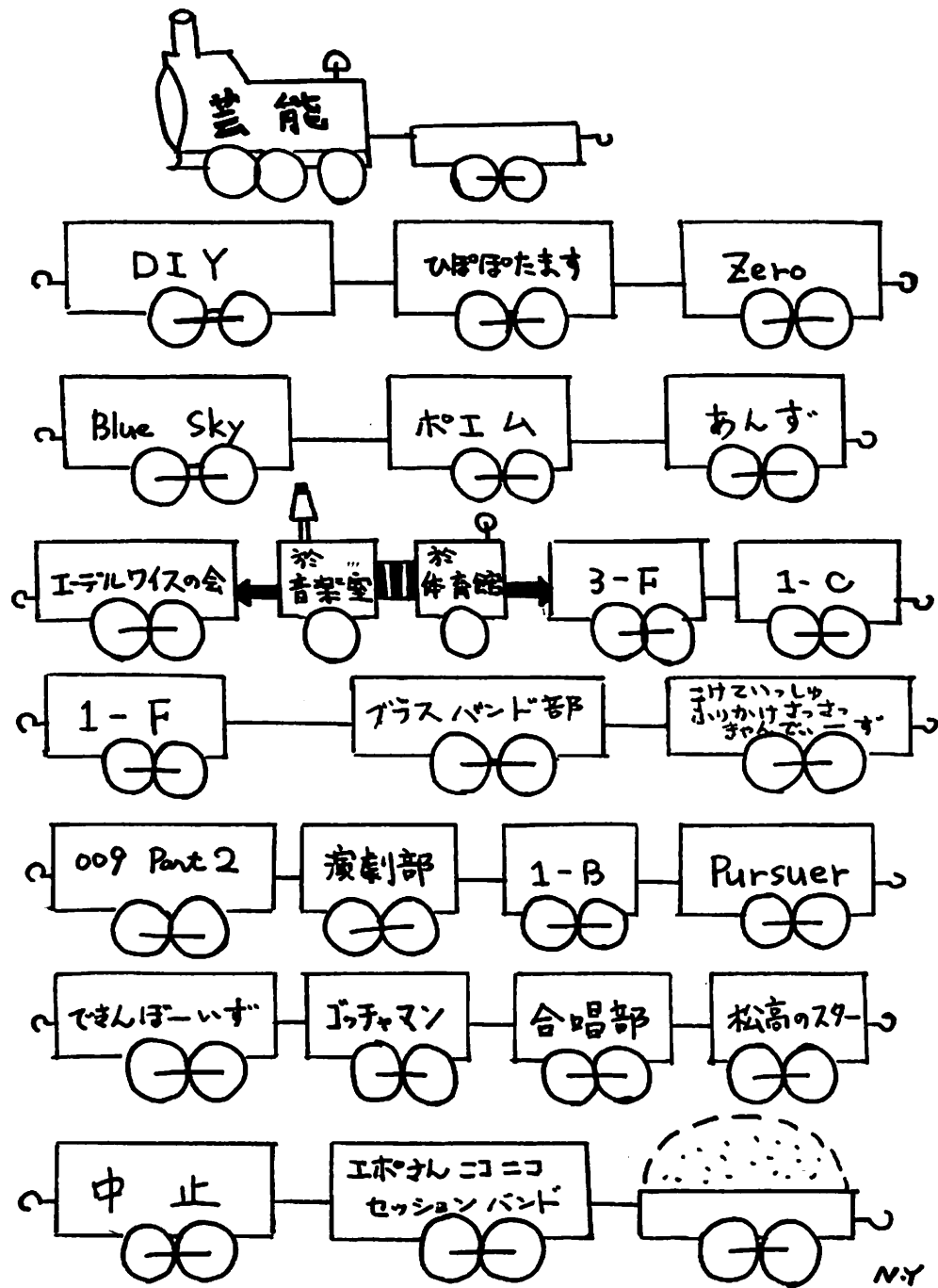
etc

んご殺人事件”まで。そしてフィナーレはかがり火をたいて、それを囲んで歌をうたいました。今年参加しなかった人は、来年ちょっとのぞいてみては？

〔輝松祭を終えて〕

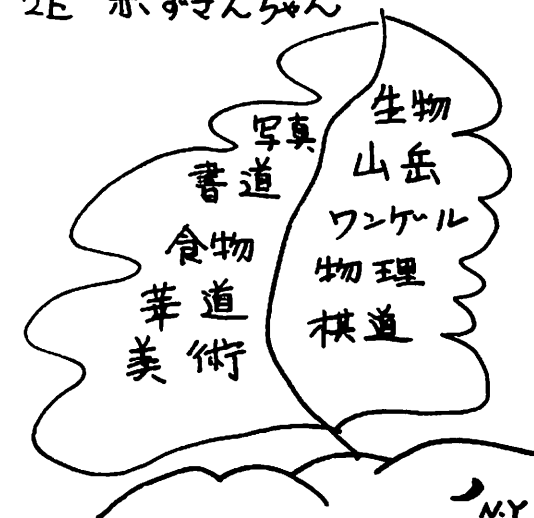
以上が第二十八回、輝松祭の概要です。イエイエ輝松祭のあの雰囲気・おもしろさはやっぱり文字では完全に書き表わせません。今年の輝松祭は、準備不足の団体もあったようです。こういうことは試験勉強と同じ、やらなくちゃ、やらなくちゃと思ってしまううちに、時間はいたずらにたってしまうものです。来年は今年以上のものをつくるためにも「早め早め」に計画をたてて準備しましょう。





- 2A 一寸法師
エデルワイスの会
- 3C クイズダービー
図書委員会
- 2D おばけやしき
- 3E 活動大写真
郷土研究会
- 2B 東海道中ひざくり毛
- 2F 映画
放送委員会
- 3B 映画いっしょに観よう
マツバラジン

- 3D 連想ゲーム
文芸サークル
- 2C 夜のミステリーゾーン
- 3A 映画
神秘のへや
- 2E 赤ずきんちゃん



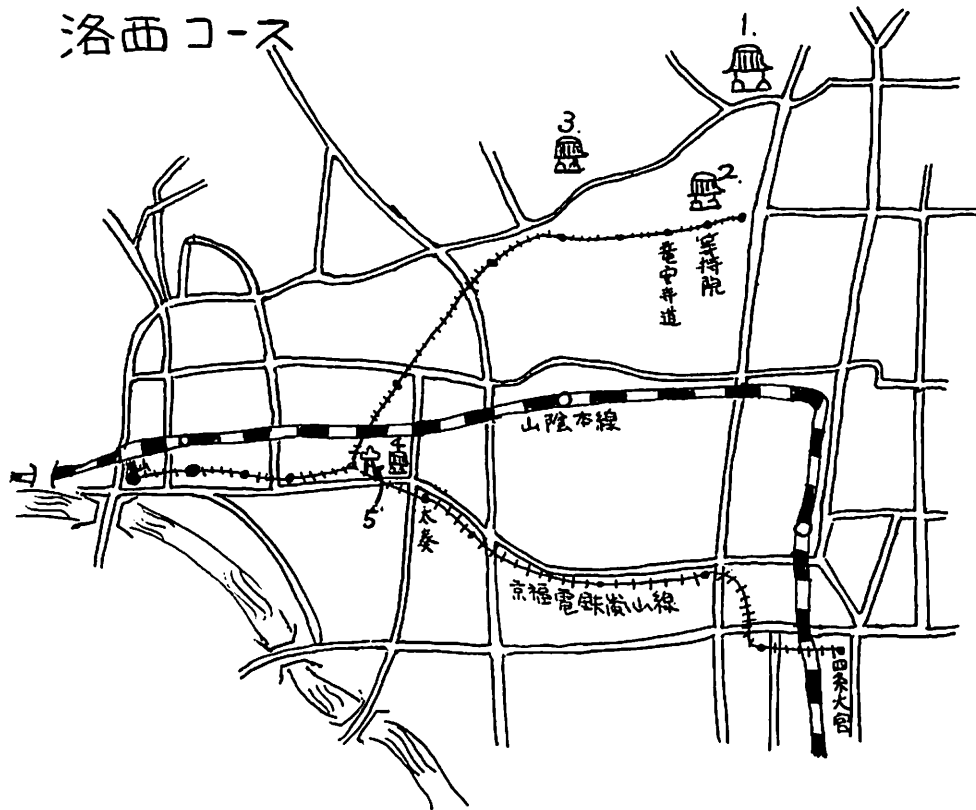
修学旅行

十月二十二日から四日間、私達二年生にとって最も大きな行事であり、前から楽しみにしていた修学旅行がありました。出発の日の朝はとても寒かったのですが、皆元気に京都・奈良へと向かいました。一日目はコース別、三日目は班別、四日目はクラス別に分かれて、皆それぞれに四日間を楽しく過ごしていたようです。では、印象的だった所でも紹介しましょう。

一日目。一室生寺・長谷寺・飛鳥資料館―
 本堂までの長い登廊と舞台からの景色が、印象的だった長谷寺。この石段、一段の高さ、奥行き、幅など人間の歩行を計算して作られているようで、決して疲れを覚えさせない。などと本には書いてありましたが、実際に登った感じでは、コンバスの長い松高生にはあわず、余計疲れてしまったようです。ここも緑がともきれいだっただけですが、登廊の両側のボタンの咲く時期でなかったのが少し残念。あ／＼忘れてました。この辺には、草もちのお店がたくさん並んでいた事を。私は、横

目でちらちら見ながら通り過ぎただけなのですが、話によるととてもおいしいそうですよ。この日の宿は、多武峰観光ホテル。静かで部屋もきれいで、とても良い所でした。夜遅くまで話などをしていた人も多いと思いますが、どういふ訳か私達の部屋では、時間になると話し声もなくなったのです。早くからパジャマに着がえて、ふとんをマット代わりに運動？いや、遊んだので皆疲れたのかな。―
 二日目。一明日香村・奈良国立博物館―
 この日の宿は、京都の三木半旅館というところになっていたので、皆大きなカバンを持って宿を出ました。レンタサイクルで明日香村をまわるようになっており、私達は地図をたよりに、飛鳥寺・橘寺……へと気分よく自転車走らせました。どこもかしこも修学旅行らしい人達でいっぱい感動も半減し、じっくり見られなかったのが残念でした。秋は夕暮れ”と言いますが”お寺は閑寂”ですね。この日は、やたら疲れた日でした。人ごみの中の見学、久しぶりの自転車、そして恐怖の鹿。鹿せんべいを持っていたために、鹿に追いかけられたのです。本当に鹿って怖いですね。少し離れて見るのが一番。鹿に追いかけてまわされるのがいやな人は、食べ物を持っ

て近寄らないことですね。
 三日目の班行動については、代表して二班の人に書いてもらったので、夜の外出について少し。とにかく、新京極はすごいにぎわい。どのお店もおみやげをかう人でいっぱい。その中の買い物はとても大変でした。
 四日目。一大池寺・石塔寺・長命寺―
 四日目ともなると、いつも元氣一杯の私達でもさすがに疲れてしまい、バスの中で気持ちよさそうにうとうとしている人もちらほら。その上、我がクラスの最終見学場所が、なんと八〇八段もの石段の上にある長命寺。長い長い石段はともつらかったけれど、登り切った時には、さすがにヤッターノというさわやかな気持ちでした。
 四日間、天気もよく楽しい旅行ができました。美しい自然に囲まれた静かな道を友達と歩くのって、とてもよかったですよ。一年生の皆さん、私達よりもっともっと楽しく心に残る旅行をして下さい。そのためには、事前の研究、しっかりした計画がとても大切ですよ。
 では最後に、旅行委員の皆さん、ご苦労さまでした。



1. 金閣寺 修学旅行の生徒がいて、少人数の私達は、まるで見せ物のようだった。不快の金閣寺。
2. 等持院 静かで人気がなく、心が落ちついた。最高のお寺。お勤め寺です。池が、絵を見ているようですごく良かった。有名な石庭は、やはりすばらしかった。
3. 竜安寺 弥勒菩薩が印象的だった。近くの幼稚園の子供達が、かわいい声で歌っていた「ありがと、ありがと仏様……」という歌が心に残っている。
4. 広隆寺 近くの「ごうのとり」というお店で昼食。京都まで来て「ピザトースト」を食べた。
5. 映画村 テレビでは見られない粗が、とても目についた。おやつに食べた〇〇が、とてもおいしかった。

班行動

食べ歩き

私たちグループは、「京の味覚を味わう」ことに重点を置き、ついでお寺を見てまわろうということを目的に京の町をあちこちとさまよったのです。

第一に甘酒。関東の甘くてしつこい甘酒に比べて、京都のそれはなんとサッパリしていたことか！ その上しよが効いていてとてもおいしかったのです。

二番目に私達が食べたものは、円山公園にある平野屋のいもぼうというもので、ぼうだらという魚の干物を戻し、里芋・ゆずの葉といっしょに甘く煮たもので、においは魚くさかったのですが味はなかなかのものでした。次に我々は湯豆腐を求めて南禅寺へ行きました。境内にある「奥丹」という有名なお店へ侵入。そこは屋外でした。緑の中の、赤い大きな蛇の目傘の下で「ぐつぐつ、ぐつぐつ」いっている湯豆腐を食べました。とろん、とろんと口に入って、う、うまい！

“感激” お値段 一人八〇〇円也。

スキー教室

私は、山はあまり好きではないのです。なぜかと言うと、山って斜めになっているでしょ。だから下まで落ちてしまいうような気がして怖いのです。こう言うと、みんなにバカにされるのですが、やはり怖いのです。というわけで当然のことながら、私は、スキー教室へは行かなかったのです。だから、このページを埋めることは、私だけの力ではとても無理だと思いましたが、スキー教室に行っただ数人の人に聞いて書くことにしましたので読んで下さい。

Q バスの中ではどのように過ごしましたか？

・ 慢才・トランプ・ゲーム・おしゃべりなどをして、あとはお眠り！

Q 雪はどうでしたか？

・ 一日目は天気がよくて、すごく少なかったけれど、あとは、ふぶきで寒かった。

Q どのくらい上達したと思いますか？

・ 立ってすべれるようになった。

さて、この楽しい食べ歩きコースのフィナーレを飾ったのは「健善」の「くず切り」です。まあこれが、店はみつからない、時間はせまってくるで、大変だったのですが、そこはもう根性と執念で食いがかり、しっかりと食べまいりました。一見、ところてんに似たこのくず切りは、なかなか美味！みつがまた面白い味なのです。

こんなわけで我々の目的は達成されましたがここで教訓を一つ「食べすぎるべからず！」

大原日記

——男もすなる日記というものを女もしてみむとするなり——とは、かの有名な土佐日記の冒頭であります。私は——編集者が書くべき旅行記を押しつけられたので書くなり——ということで修学旅行記を書いていきます。

私達の班は三日目の自由行動に大原を選んだ。三千院などをまわりましたが、どこもかしこも修学旅行の生徒の多かったこと、どこのお寺に行っても黒ずくめ 紺ずくめ。それに新婚さんe.e.c……。(なんと、私達が撮った班員全員が写っている唯一の写真の右側に

・ 自分では、よくすべれるようになったと思っている。

・ 中級ぐらいかな？

Q スキーの利点は？

・ 一度やったらやめられないこと。

Q 行って良かったと思う事・不満な点は？

・ スキーがうまくなり、楽しさがわかって友情が深められた事。

・ 山田寮が、めちゃくちゃきたなく、布団が冷たかった。そして、つぶすときさい「へっぴり虫」の集団発生！

Q 感想を一言。

・ 楽しかった。春も行きたいです。

Q 今後行く人のために一言。

・ 今やらなかったら、チャンスはないと思います。とてもおもしろいですよ。
・ あったかくして行きましょう。

話を聞いてみると、なかなか楽しそうですね。私もスキーをしてみたいような気がしてきました。皆さんもしてみてはどうですか。

は、なにを勘違いしたか幸せそうな新婚さんが、こっちを向いて写っているのです。」
結局、最終的に印象に残ったことは、有名なお寺よりも田舎の道を歩いたり、京都の人の人柄に触れたことでした。きれいな空気を吸いながら、山や田んぼに囲まれたあぜ道を歩いている時に、
「ああ、ついに来たんだー」
と思い、昼ごはんを食べた店のおばさんの温かさに、
「商売っ気のない優しい人だー」
と、とても感激しました。でもそれと同時に人気のないこんな奥地まで入らないと京都の本当の良さはもう味わえないと思うと、ぞろぞろ人ばかり連ねて有名な寺ばかり見学する修学旅行に何の意味があるのかと思いました。せめてまだ静かなこの地域にだけは、いつまでも人の波が押しよせないで欲しいと思います。個人的感想としては、日本の大事な物・場所だからこそ近くで見るとは、遠くから見守ることも大事だと思います。事実、人に押されながら見た場所などの印象は、私の心のどこにも残っていないのですから……。



生徒会報告



ル・ワール 特別企画 恐怖の指紋あて QUIZ

※ヒントを見て、誰の指紋か当てよう!
①-⑧は先生で、あります!!

① だや私はきじじい

② 静正校で、タダの女の教師。それはアタシ

③ 昨年内外と大変身とびで絶賛と浴びた、おまじとすしを混ぜた、最高峰の男性

④ 静正校で、タダの女の教師。それはアタシ

⑤ 静正校で、タダの女の教師。それはアタシ

⑥ くらゐスモーカーの僕でもあの部屋にいたんじゃあネ...

⑦ 就職のことならまかせて欲しいです!

⑧ おまじとすしを混ぜた、最高峰の男性

⑨ 静正校で、タダの女の教師。それはアタシ

※①-④まで解けた人は581ページを見よう!
6月以上の正解は同格。
⑨のわからなかつた人は同格。

委員会紹介

評議会

評議会は各クラスの代表者五四名で構成されている生徒総会につぐ議決機関です。生徒総会につぐ議決機関ですから審議する内容は当然重要で、しかも生徒に直接関係あるものばかりです。たとえば予算をきめたり、規則を改廃したりもするのです。

ただ、残念なことにこの重要な評議会が一般生徒にはあまりはつきりと理解されていないのです。その結果、重要な案件は委任状がほとんどで決定されてしまう事であるのです。

ですから、これから評議会をやると思う人は、ぜひ評議会の重要さを理解しておいて下さい。詳しいことは、生徒手帳31頁〜39頁にとてもよく記されていますので、ぜひ読んでおいて下さい。

(評議会議長 田中)

新聞委員会

ここ数年、新聞委員会の活動は低迷している。その原因の一つは「委員会」という生徒会の機関として、クラスから義務的に委員会を選出しているという点にある。新聞作りにまるで興味も意欲もない人が、少なからず集まってくる。又、一年ごとの委員会の交代では、一年生の時に覚えた新聞作りも、次の年に続かない。本年度の場合も、昨年度から続けた残った者は二人しかない。これでは、活発化させようにも人材が足りない。

しかし原因はそれだけではないと思う。夏休みのある日、ある教室のすみに一学期に発行した新聞が配られずにはこりをかぶっているのを見た。生徒全体も学校新聞についての関心は薄い感じだ。生徒からの学校新聞に対する期待も要求も我々は感じ取れないでいる。現在の新聞委員会は、このように最低の状態にある。しかし学校新聞には、生徒の意見を代表する大切な使命がある。がんばって行きたい。

(佐野記)

クラブ委員会

「クラブ委員会」とは、各クラブの代表者が集まり、クラブのあり方についていろいろと話し合う委員会です。主な内容をあげてみると、合宿の計画運営・各クラブの予算の取りまとめ・活動についての諸注意などであります。

たいした仕事をしてないように思われるかもしれませんが、(とんでもない。)この委員会に欠席のめだつクラブは、何と「廃部」にされてしまうのです。それ程重要な委員会なんです。多少、他の委員会とは異なりますが、楽しいクラブ活動ができる様に毎週毎週がんばっています。

(神田記)



文化祭執行委員会

今年の輝松祭は幾つかの問題を残しはしましたが、まず何とか終わりました。輝松祭までのいきさつは今回省略させていただきます、文化祭執行委員会というものを紹介したいと思います。

我が委員会は、正副委員長・会計・書記・各学年代表による運営委員会が構成し、ここで原案を作成し、委員会にかけるといふ形態をとっています。今年の輝松祭の計画はそういう中で生まれたのです。今年はこの運営委員会の設置により、従来より計画的にかつ組織的に活動してきました。特に後夜祭にも力をいれたつもりです。文化祭が終わると執行委員会が自然消滅すると皆さんは思っているかもしれませんが、決してそのようなことはないのです。その後の我々の仕事は、次回の文化祭をよりよいものにするため今回の問題点を可能な限り改め、一年生への引きつぎを完全なものとする事です。そう、文化祭執行委員会是不滅なのですぞ。

(川口記)

体育委員会

前期は、体育祭、球技大会を中心に活動をした。

体育祭は天候にも恵まれ、例年以上に熱が入った高校生らしいりっぱな大会として終了できた。二年生を軸として、みんなの協力による成果だと思ふ。

球技大会は、今年から種目数を増やして、できるだけたくさんの方が参加できるように自分の好きな種目に出られるようにした。この事によって球技大会に対するみんなの関心度が以前より高まったと思う。

いつの時でも、体育祭、球技大会というのは仲間同志の団結力を生み、目標に向かって頑張る事の素晴らしさを教えてくれる。その機動力となる体育委員会の仕事は、とても内容のあるものであった。

(糸多記)

図書委員会

図書委員会です。委員長です。男です。一年生です。大変です。

生活委員会

この委員会は、言わば松高の「国会」です。クラスの代表が週一回集まって、松高生の生活規則を作っていくのです。

とても大変な様に聞こえるかもしれませんが

が、そんなことは絶対ありません。君達と同じ、一人一人の生徒が、自分達にとって過ごしやすい学校にするため、自分の意見を言う合うだけなのです。

参考までに今年の主な問題を並べてみましょう。

- ・昼休みの外出について
- ・自転車置き場所、その他について
- ・ブーツ、革ジャンパーの着用について
- ・飲酒、喫煙の防止について

などです。

どうでしょうか。

自分の気にいった学校にするためにも、この委員会に入ってみては。

(川辺記)



保健委員会

ジャンケンで負けて委員長になった僕が、保健委員会の紹介などをしていいのではありませんか。まあ、それはいいとして、とにかく活動の内容について書きましょう。

活動内容はだいたい四つに分けられます。第一に病人、けが人の手当て。これはほとんど保健の園田先生がしてくれます。第二に病気、けがの統計。第三に石けん水の補充。そして第四に「魔の新聞作り」であります。その他、文化祭、修学旅行などの行事の際には「救護係」として活躍しているのです。なんとなく存在感の薄い保健委員会ではありますが、学校生活のかけひなとなり、常に(?)がらばり続けているのです。

(山下記)

整美委員会

「整美委員」というと、地味な活動をしていて敬遠する人も多いと思う。実際、前期整美委員として仕事をしてきたが、目立つことのない地味な委員会であることを痛感した。

驚いたことに、この委員会では出席率がとても高い。三年生でさえも特別待遇されない。そして、時間内ぎりぎりに終了する。前期は、とうとう一度の休みもなかった。

みなさんも大掃除の期間中、一度は掃除用具を受け取りに行つて、気がつかれた方も多いだろう。あの時、掃除用具のチェックをしていたのが整美委員である。これが最大の活動であろう。

我が松高には、想像を絶するほどの膨大な掃除用具がある。これを使わないという道理はない。用具が足りなくなる程、念入りに掃除をしてどんどん掃除用具を使ってほしい。自分たちが、日常生活する教室・廊下などは積極的に自ら進んで掃除してほしい。

(菅原記)

修学旅行委員会

私たちはその名の示す通り、修学旅行のプランを立て、しおりを編集すること、春の遠足の細かな事項を検討することなどを活動の対象とします。任期は一年。前年度の冬ごろから具体的な仕事に取りかかります。たった数日の事を決めるのにそんなに長い時間が必

要なのかと皆サンに言われそうですが、予定日や目的地、旅館といったアウトライン以外は全て私たちが決定せねばならないのですし、また私たちがだけでなく、生徒ひとりひとりの意見を聞くことを目標としましたので(実際は無理でしたが)、時間的にはちょうど、といったところなのです。

委員自身も知識が乏しい所があつて航海はかなり難航し辛いこともけっこうありますが、苦労すればその自分たちの旅行が良くなつていくのですから、舵をとり櫓をこぐ腕にも自然と力がいっていくというものです。

(外立記)

放送委員会

「みなさんこんにちは、お昼の校内放送の時間です……」なんていう放送もあり、「およびだしたいします……」なんていうものもある。校内放送をすべて受け持っているのが我が「松原ブロードキャストシステム」略して「MBS」なのです。先ほど書いた事、他、下校放送、あるいは体育祭、文化祭等の放送を受け持つのも我々「MBS」なのです。

こう書くと、なんだか大変な仕事のようにですが、実際は……？ 事実、忙しい時はメシを食べる暇もない？くらい忙しいのです。でもそんな忙しさも先輩の優しい指導のもとでは、なんの苦にもならないでしょう。

どうでしょうか、みなさん。学校の中心核をつき進む我が「MBS」で活躍してみませんか？

(芹沢記)

選挙管理委員会

選挙管理委員会といえば文字どおり選挙の管理、いいかえれば運営のようなものですが、我が校の場合は少し違っています。第一の仕事といえば、立候補者を出す、いや出してもらふようにたのみ込むのです。これも運営の一つかもしれません。が、例年、当委員会ではこの点で苦労しています。

我々や生徒会総務にも責任があるのかも知れませんが、松高生は少し生徒会というものに無関心なのではないでしょうか。

「生徒会？ よく知らないね。」なんてよく聞きますが、生徒会というのは松高生のために運営されているのです。だから活発にな



つて来た生徒会に注目しましょう。そして、もっと松高生が生徒会というものに関心を持つようになって欲しいと思います。

CLUB 紹介

もくじ

文化部

- ・演劇
- ・華道
- ・合唱道
- ・真食物
- ・合棋
- ・早食物
- ・書道
- ・物理
- ・ブラスバンド
- ・53年度クラブ活動状況



運動部

- ・剣道
- ・硬式テニス
- ・サッカー
- ・山岳
- ・柔道
- ・ソフトボール
- ・体操
- ・卓球
- ・軟式テニス
- ・バスケット
- ・バドミントン
- ・バレーボール
- ・野球
- ・ラグビー
- ・陸上
- ・ワンダーフォーゲル



クラブ紹介

剣道部

我が剣道部は、「無理は万病の源」をモットーとして、初心者の方にも楽しめ、かつ、すぐに上達する練習法をとっています。そのうえ先輩、後輩の仲も良いし、気まえのいいOBもいるし、マネージャーは美しいし？もう文句のつけようもないほど素晴らしいクラブなのです。

剣道と聞くと難かしそうで堅苦しそうだと思う方が多いようですが、我が部は前記のような素敵なムードの中でけいこするわけですから、やったことのある人はより一層上達するし、初心者の方もすぐに段がとれます。絶対に!!

一時期消えかけていた過去の栄光も今は取り戻しつつあり、今、我が部は第二期黄金時代をむかえつつある。諸君、一緒に栄光を築きあげよう!!

硬式テニス部

私達硬式テニス部は、去年同好会から部に昇進したばかりのクラブです。コートがいませんが今までどうにか三年生が頑張ってきました。男女どなたでも、(男子が少ないので特に男子。)やる気のある初心者諸君、入部してみてはいかがですか？

現在部員は五十名近くいますが、コートは東京電力のグラウンドを使用させてもらっているの、十分とまではいなくても、やる気のある人なら練習できると思っています。練習日は、月・水・木・金と週四日行っていますので、見学されたい方などは気軽に申し込んで下さい。

今年で二年目をむかえる、出来たてのホヤホヤの硬式テニス部をよろしくノ

サッカー部

- ・練習日 月・火・水・木・金
- ・時間 三時三十分～五時
- ・方針 “気合”の一言

以上

山岳部

わがクラブの活動の舞台は山、主に秩父・丹沢、又三千m級の南北アルプスなどと幅広く足跡を残している。

普段は、ランニング等のトレーニングで、こつこつと体力作りに励んでいるが、休みが近くなると、あてもない、こうでもないとい山行のプランニングをする。そして待望の週末、学校が終わると、いそいそと、でかいザックにも残した宿題にもめげず山に向かう。麓でキャンピングを楽しむ、波乱に富んだ一夜が明けると、頂上を目指しひたすら登る。そして大きな感動と充実感を胸に、君は帰る



のだ。これが典型的な山行の例だが、その他文化祭には部誌を発行・販売している。自然に親してみたい君、山賊料理を研究したい君。山岳部に入ればきっと、本当の山好きになれる。山岳部で愉快な仲間と青春をエンジョイしよう！

柔道部

柔道部です。今まで柔道など全くやったことのない君、心配はいりません。現在いる部員のほとんどが全くのしろうとでした。しかし、皆、半年前後で黒帯をとっています。

さあ君も黒帯を！本校では体育の授業に柔道があります。「白帯の中に黒帯一人。」なんてカッコいいじゃないですか！

練習は月・水・金の週三回。体育館で行っています。我々が親身になって指導しますので、恐いことなどは全くありません。

先生は、樋口正三先生（六段）で、とてもいい先生です。

とにかく松高柔道部はいいクラブはありません。

とにかく一度見に来て下さい。そうすればわかります。

ソフトボール部

ハロー！ソフト部の登場です。ソフトボールと言えば、今や幅広い世代に渡って親しまれているスポーツですよ。高校生活を一段と楽しく、そして有意義に送ろうとしているあなた！是非我がクラブへ直行！！ほこりまみれのグラウンドの中で、ラグビー部のタックルにも負けず、サッカーボールに当たってもビクともしない可憐な私達と一緒にプレイしようではありませんか。お団子のようなボールをグローブにガッチリと捕球した時のあの感激、思い切りスイングして打った快感は、一度やってみなければわかりません。個人の力とチームの団結が生む勝利の味をあなたと共に。松高きってのバー坊ぞろいで有名な先輩がゴロゴロ。公私共に楽しいのです。とにかく青春時代はソフトに限るのだ！そこのお嬢さん、お姉様の所へいらっしゃいな。

体操部

若者よ、体を鍛えよう！

ということでは、体操部であります



よん。今日、何が大切かって、それはもうあなた、公害や地震にも耐えていける強じんな体力とずぶとい精神力、こんなことを書く体操部は、体力しかとりえのない集団だと思ってしまう。と君！。ところがさにあらず、我が部は現在女子ばかりだけれど、とても和気あいあいと楽しく、そして一生懸命練習しているのです。特にユーモア精神は、練習中にも笑い声がおこるほどあふれております。体が鍛えられて精神力も身につく、且つ、ユーモア人になれる、こんなチャンスは二度とない。女子はもちろん、男子諸君！！是非、我が部をのぞいてみて下さい。そして一緒に練習しましょう。きっと体操が好きになるでしょう。どうぞ恵まれない体操部に男子を！

卓球部

はじめまして……新入生のみなさん！期待に胸をふくらませて、松高の門をくぐった、ア・ナ・タ！その新鮮な気持ちの今、この時を、卓球部で過ごしたくはありませんか？

我が卓球部は、部員約三十名のクラブですが、その一番の特徴として言えることは、みんな「何事も「気合い」でやり通そうとする根強い精神をもとうと努力する人間のかたまり」だということです。ですから万一にも卓球部で得たこの気合い精神というものは、きっと近い将来にも役立つでありましょう。

こんな我がクラブに関心を持つ方は、一度生徒会ホールをのぞいてみて下さい。

「すてき〜」といえるかどうかはわからないけれど、底しれぬ優しさを持った先輩が、一君達！！を待っているのです。ハイ。

軟式テニス部

ハロー軟式テニス部です。我が部も世間と同じく不況の波にあおられて、新入部員が例年になく下降気味だったのです。しかし、そ

れにもめげず毎日厳しい練習に堪えています。コートで思いきりプレイし、汗を身体中流して素晴らしい青春をあなたも過ごしてみませんか？中学の時に運動部に入っていなかったから、なんて言っているあなた、しりこみしてはいけません！そんな心配は、無用。先輩が熱心に教えてくれるし、ステキなOB、優しいOGが毎日熱心に指導して下さいなのです。

夏休みには、技術面に大きなプラスとなり我が部のチームワークをより向上させる行事として、合唱があります。これがまた最高……。さあ、後輩達よ、あの四角いコートの上で素晴らしい青春とテニスの星をその手でつかんでみませんか……。

バスケット部(男・女)

とにかく目立とう精神の強い子の集まりです。男のスポーツの中で最もカッコよく、スマートなスポーツで、女のスポーツの中では最も鋭く、華麗なもの、それがバスケットです。そのバスケット好きの集まったこのクラブには、きりりとしまりのあるカッコイイ男の子や、足くびのしまったステキな女の子がたくさんいます。質のよい、優しいマネージ

ャーもおります。だからみんな、バスケット部に入ろうね。やる気のあるマネージャーも募集しております。「前チョン」(前田宗宏君)も待ってるからね！

バドミントン部

こちらは、バドミントン部です。

何がつかって、そりゃバドミントンが誤解されてること。風のない穏やかな日曜日に親子で優雅に打ち合っている。あれが、バドミントンだと思われては困るのです。

こんなこと言っても知らない人にはわかりないと思うのですが、体力と集中力が必要で、練習もきつくて大変だけれど、とつきにくいものは、とついでしてしまうとどうしようもなくとつきやすいもので、あの素晴らしい、皆にも知ってもらいたいです。願われれば、波乱づくめの毎日でした。でも本当に不思議なもので、いつの間にかお互いに、信頼感ができあがったのです。

これ以上よいクラブはないと、本人達が信じて信じているクラブに、あなたも入って、私たちのあとをつないでみようとは思いませんか？

バレエ部(男・女)

みなさん、こんにちは！みなさんはもちろん「バレエボール」という球技を知っていますね。そしてそれやってみたこともあるでしょう。そうです！バレエボールは、みんなから親しまれ、そして楽しまれているのです。私達は、火曜日を除いた週五日間、バレエボールの技術を磨くために、一生懸命練習しています。コート陣にも恵まれ、とてもよい環境のもとで毎日汗を流しています。

夏休みには、毎年合宿が行なわれていますが、これは、チームワークがより一層高まる絶好のチャンスなのです。この合宿が終われば、バレエボールがやめられなくなるほど、魅惑されるのです！バレエボールが苦手だという人でも、必ず好きになるでしょう。

さあ、みなさん！一度バレエコートにきてボールを追いかけてみてはいかがですか？

野球部

野球部を一度のぞきにきてください。野球が好きな人は勿論、そうでない人もきっと、

ちゃんとあるのです。三年程前に先輩方の必死の努力で同好会から部になった、まだ歴史の浅い部なのです。

人数は少ないですが、それだけ和気あいあいノとーっても楽しいのです。活動日は、週に四日で、月水木金です。桜上水の東電グラウンドが借りられる時は、そこでやります。あの大きなグラウンドをたった十数名で使うのは気持ちのいいものです。目だたない部だからいやだというような声も聞かれますが、それでもいいではないですか。風を切って思いっきり走るなんてことは、他のクラブでは味わえない心地よさです。走るのが遅いなんてちっとも気にすることはないのです。マイペースで練習すればよいのですから。

なお、マネージャーも募集しています。どうぞよろしく！

ワンダーフォーゲル部

ワンダーフォーゲル……それは渡り鳥。数少ない部員でこぢんまりと地味にやっているクラブなのです。

夏は山でキャンプ、冬はスキーと前代未聞の豊富な内容。

部員の人達と一諸に汗を流したくなります。野球部っていうと、堅くて真面目でって思うかもしれないけれど、松高の野球部は和気あいあいムードの中に、厳しさを持った、とっても素敵なクラブなのです。練習は厳しいけれど、ひとつひとつの積み重ねで大切です。その事は、夏季大会でベスト16まで進めた証明でもあり、その時の部員は本当に一九となっていました。あなたもこの仲間には非入ってください。あ、それからマネージャー志望の人もどんどんおいで下さい。お待ちしております。



ラグビー部

ラグビー、それは、三十人の男が織り成す感動的なドラマだ。一度試合に臨めば、そこは楯円球だけに執着する激しい世界だ。躊躇したら負けだ。気迫が欠ければ、勝利を握ることはできない。作戦タイムを取ることすら許されない。泥に濡れ、時には雨に濡れて、「苦しい……痛い……」

と思っても、勝利の快い笑みが十五人の顔に浮かぶまでは、奥歯を噛みしめて一歩でも前へと突進する他に道はないのだ。苦しい練習に堪えた自信だけが、自分を支えてくれる。新入生諸君！若さをぶつけない、グラウンドに出て来い。我々は、ラグビーが与えてくれる感激を諸君に伝えたい。ボールを手にする第一歩から全てが始まるのだ。共に汗を涙を流そうではないか！来たれ！過去関東大会に五回出場の伝統ある我がラグビー部へ！

陸上部

陸上部です。そういうとみんな「そんな部あるの？」と不思議そうな顔をしますが、ち



テントの生活もなかなか楽しいものです。根性なんかなくてもだいじょうぶ。その証拠に、クラブの代表であるべき部長さんは、有名な根性なしです。

まあ、かるい気持ちではいってみて。高校時代、なにか普通じゃないことを、やりたい人、個性をねらう人はぜひ、はいってみよう！

自然が君をよんでいる！

演劇部

ある時は 美しく聖なるギリシア神話の女王、またある時は、せこい不良学生、ほろほろと涙滴る悲劇のヒロイン、初老のすけべ教師、うなぎ屋に用務員。あらゆるパターンを見事にこなし、一体となって一つの作品を作り上げるチームワークでは、どのクラブにも負けない演劇部です。

部員は十六名。文化祭前には、これに多くの援助が加わって、大・小道具・照明・音響など、部員以上にやってくれます。(ひたすら感謝)活動日は毎週木曜日。だから普段、運動部に入っている人も現に居て、両立も可能です。とにかく笑いっぱなしのこんなおもしろいクラブ 他にあんのかな?

目指すは九月の文化祭。

みんな! わたしたちと一緒に、舞台に立つよう



華道部

さて、松高の「花」華道部の登場であります。我がクラブの女らしく華麗で、かつ上品な雰囲気、あなたはきっと魅了され、心を奪われることはまちがいないでしょう。と言っても、少しも堅苦しさはありません。先生が親切に指導して下さるので、初めての人でも何の心配もありません。

いつもは見過している花屋さんに並んでいる花。それを自分で生けてみるのは、無造作に花びんにさしておくより、十倍も百倍も価値があるのです。皆さんもこの価値を創り出してみませんか。そして華道部最大の利点はお免状がもらえることです。お嫁入りの時はもちろん、何かの役に立つことは確かです。

女の子に生まれたなら、一度は女らしく華麗な華道の世界をのぞいてみましょう。一度しかない青春のひとときを「華道部」で。

合唱部

ハローです。この文字を今読んでいるみなさま。偉大なる我が松高合唱部の登場であります。

ます。火・木・金曜日の放課後になると、どこからともなく勉強にやつれた(?)顔をしてぞろぞろと音楽室に集まるのです。しかしひとたびピアノが鳴りだすとやつれた顔もどこへやら、大声で歌い(「真実はなる」)顔はバラ色に輝くという、はたから見れば「不気味」なクラブなんです。(せんせんクラブPRになつたらん)人がなんと思おうと歌うことはすばらしい!あこがはずれるまで大口を開けて我々と共に歌ってみようではありませんか。きっと何かが見つかるでしょう(ウツまじめー)さあさあ こっちです。ほれそこの人、合唱部はこっちだつてんのに……。ウツノとにかくメチャメチャでしたけど、合唱部をよろしく願いします。

棋道部

現在、囲碁・将棋は中・高校生の間で人気のあるものの一つに数えられています。これを読んでいる皆さんの中にも好きな人はいるでしょう。それなのに、「弱いから」とか何とか言って、入部しない人が多くて困っています。しかし、そんなことは気にしないでいいのです。活動は週に二回、どこかの教室で

です。

やる気のある人、一度部会を覗いてみて。その雰囲気の良いさに驚くから! 現在女子部員も大勢活躍しています。

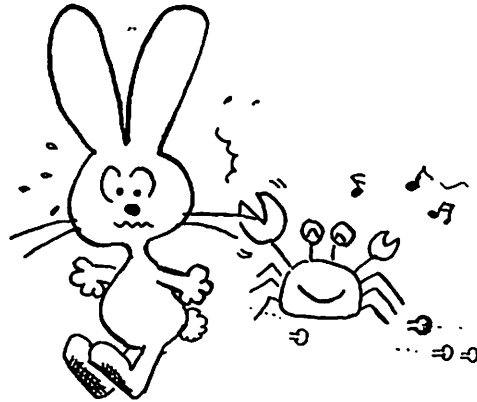
先輩も後輩もない自由な雰囲気の中で、勝敗なんかには目もくれず、授業のあとのひとときを楽しくしているようなクラブです。それに囲碁・将棋をやれば、自然と頭の回転もよくなる……カナ?

まあともかく、囲碁・将棋に興味のある人は棋力など気にせず、迷わずに棋道部に入部しよう。女子の方も歓迎します。

写真部

写真を自分で焼くって言うと、難しい事のように聞こえがちだけど、実際やってみると意外に簡単なんです。むしろ一人でやってやれない事はないけれど、せっかく優しい?先輩方がいるんだから、笑点大喜利のような部会に出てみるのも悪くないんじゃない?

うまく撮影し、現像、引き伸ばしが出来た時の喜びったらもうこの上ないよ。腕に自信がついたら様々な技巧を凝らして、自分だけの写真をものにするのだ。部としては週毎に変えるギャラリーや、年一回の文化祭時等の校内における写真展示に主に力を入れているけど、今年から新たに写真コンテストに参加する予定で、目下準備を進めている次第



食物部

食物部などというと、家庭科で栄養なんかをやりそうだと思われるかも知れません。で

も、火曜日の放課後にちよつとでも食物室に入ったらそんな考えはどこか遠くに行ってしまう。食物部は「お菓子を作って食べる」そんな楽しいクラブです。今は女の子ばかりですが男の子でもお菓子を作ってみたいなどという人は大歓迎です。お菓子を作ったことがない人でも、お料理の苦手な人でも大丈夫! このクラブに入れば友達のお誕生日に手作りのお菓子をプレゼントできるようになります。顧問の弓家田先生にアドバイスされながら自分達で相談して楽しく作るのです。文化祭にはみんなおそろいのエプロンでパーラーを開きます。

書道部

現在、部員は十七名。活動は週一回と少なくて低迷しているように見えます。しかし、しかしですよ、同部は楽しく、和気あいあいの雰囲気の中で、自分の気持ちを書き表すことにできます。

字を一つ書くにしても、線を一本引くにしても、微妙なところに書く人の心が出てくる

クラブ活動状況一覧表(53年度)

	THE CLUB	かつぎょうび						活動場所	部費	控室
		月	火	水	木	金	土			
文化系クラブ	演劇道	○				○		2E	200	2E
	華道						○	被服室	150	
	合唱		○		○	○		音楽室	150	音・準
	棋道		○	予	○	予		2A	0	
	写真				○			暗室	100	
	食物		○					食物室	200	
	書道	○			○			書道準備室		
	生物		○		○			生物室	50	
体育系クラブ	物理				○		○	物理室	100	
	プラスバンド	○	○	○			○	音楽室	250	
	剣道	○	○	○		○		体育館	200	更衣室
	硬式テニス	○		○	○	○		東電グラウンド	400	教室
	サッカー	○	○	○	○	○		校庭	200	
	山岳		○			○		芦花公園	0	
	柔道	○		○		○		体育館	200	2A
	ソフトボール		○	○		○	○	校庭	200	
	体操	○		○		○		体育館	200	
	卓球	○	○	○		○	○	卓球場	200	
	軟式テニス	○	○	○		○	○	テニスコート	200	更衣・部室
	バスケット(男)	○	○		○	○	○	体育館・庭	250	
	バスケット(女)	○	○		○	○	○	体育館・庭	200	更衣室
	バドミントン	○		○	○	○		体育館・庭	250	更衣室
	バレーボール(男)	○	○		○	○	○	体育館・庭	100	部室
	バレーボール(女)	○	○		○	○	○	体育館・庭	100	更衣室
	野球	○	○		○	○	○	校庭	200	
	ラグビー	○	○	○		○	○	校庭	100	
	陸上	○		○	○	○		校庭・東電グラウンド	0	
	ワンダーフォーゲル		○		○		○	2C	150	2C

ものです。それを楽しい仲間の中で、自由に表現するところにクラブとしてのよさがあると思います。

活動内容として主なものを上げますと、まず体育祭の表彰状書き、文化祭出品作品、運動部から依頼された賞状書き、印鑑作りなどです。印鑑作りは、皆興味を持っているようで必死に作っています。自分の名前を自分の手で彫る、そしてそれが作品、年賀状の横に押してあるというのは、なかなかステキなことだと思いませんか!!

生物部

放課後のひとときを動物や植物に囲まれた部屋で過してみませんか?

生物部は地味ながらもとても楽しいのです。活動は主に小鳥・ネズミの飼育、花壇の整備などいろいろで、他にも自分がやりたいと思う研究が自由にできます。また、夏休みには合宿で八ヶ岳の方へ行きます。草花を採集したり、蝶やとんぼを追いかけたあと、外で食べるバーベキューの味はもう最高。

現広、部員は二十五人。一年生がほんのわずかしかないのが、大きな悩みのです。

これから活動をもっと派手にしていきたいと思うのです。少しでも動物が好きな人、草花に興味のある人は、みんな誘い合って、一度、生物室に来てみませんか?

物理部

我が物理部の主な活動内容は、「アマチュア無線」と「天体観察」で、どちらかと言えば「アマチュア無線」に重みを置いてやっています。アマチュア無線とか天文観察なんて聞くと、部屋のすみでいじいじとやっているように聞こえますが、決してそんなことはないのです。確かに年内のクラブ活動の多くは部屋で行なっていますが、年に五、六回、望遠鏡やアマチュア無線機、アンテナ等を山や高原にかついで行き、太陽の下でのびのびと活動することだってあるのです。それから、話は少し違いますが、我がクラブに入るといえる特典があります。モールス符号を楽にマスターできること・部員の指導により初級ハムの国家試験に軽くパスできること・一年に二回電子工作をすることができ……などです。物理部とは、こんなに楽しいクラブなのです。

プラスバンド部

ある男と女の会話。

男「タベどうだった?」

女「とってもよかったわん!」

男「そんなに感じた?」

女「もちろんよ。決まってるじゃない。」

男「あれくらいで? 今度はもっと凄いやつにしてやるぜ。」

女「えー 本当 うれしい。絶対ヨォ。」

男「君もなかなか好きだネェ! イイ線いってるじゃん!」

女「当り前じゃない。松高のブラバンの演奏きいて感じない人いる? 燃えたわヨ!」

男「もっと凄いの絶対きかせてネ。」

清く正しくたくましい高校生活! 加えて明るい未来、楽しい人間生活を送りたい君! 道は一つしかありませんぞ! プラスバンド部にはいりなさい。我がクラブのモットーは和気あいあい・コミカルな部員・パイオニア精神満ちあふれる心……とにかくファンキー!! クラシック・ポピュラー……なんでもいざれ。LET'S TOGETHER!

編集後記

私はこの仕事に命をかけて、一年間、死にもの狂いでがんばりました。

一 A 品田 治郎

私はこの仕事に命をかけて、一年間、死にもの狂いでがんばりました。

一 C 仙田山聡子

私はこの仕事に命をかけて、一年間、死にもの狂いでがんばりました。

一 E 吉野 正子

私は、この言葉だけはルクルに、載せたくはなかった。バンザイ終わった!!

一 F 小山 恵美

この一年の苦しみを忘れるのですか! やっと人並の生活が出来る! バンザイ!!

一 F 堀本えり子

「無……………」 リン!

二 A トッコロリン

「無……………」 カチャ!

二 A デコ

「無々々……………」 モシモシ!

二 A リッコロリン

「無々々……………」 バオー!

二 A 郵便 メチャ

やっと編集も終わり、私の心は秀樹と共に空のかなたへ……………」

二 C 西城 秀子

すべての力を失なってしまった今、私はエネルギー補給に イスカンダルへゆく。

二 C ヤマト あかね

この会誌で自負できるのは、青春を犠牲にしてまで全精力を傾注しつくした一人の男がいた事である……………」 二 C 大久保英昭

六十年代の希望も、七十年代の挫折も終わった。八十年代、青年は荒野をめざす。

二 E 真鍋 重朗

42ページの答え

- ① 広見先生 ② 中平先生
- ③ 倉橋先生 ④ 野本先生
- ⑤ 橋本(秀)先生
- ⑥ 吉成先生 ⑦ 宗内先生
- ⑧ 益子先生 ⑨ 著者



エピソード

いったいこの地球上で何人が生れ何人が死ぬのか考えただけで気が遠くなります。その中で同じ国に生まれ、同じ時代に育ち、まして同じ学校に通うなどというのは、何千億分の一、いや数えられないくらいの確率でありまして、こうなれば偶然というよりはむしろ奇跡ですね。奇跡的にめぐり会った学校友達なので、この時を大事にしたいと思っています。(かなり強引にまとめた)

ところで、私が責任者としての自覚たりなくとろろしているうちにみんなが走りまわって27号ができました。

御協力下さったみなさま、本当にありがとうございます。たまちゃん、感謝してます。

それでは……………」

二年 E 組 高橋 彩子

ル・クール 27号
昭和54年3月10日
発行 東京都立松原高等学校生徒会
編集 生徒会誌編集委員会
顧問 水谷 文子 先生
印刷 K. K トーコー印刷



—ル・クール—
LECOEUR